創詩１００周年・記念詩碑建立４０周年

周恩来元首相記念事業 報告書

一般社団法人 日中国際文化交流協会
周恩来元首相記念事業委員会

目　次

1章 事業開催の経緯

1．事業開催の趣旨 4

2．記念詩碑（「雨中嵐山」）について 5

　1）周恩来元首相記念詩碑建立の経過

　2）「雨中嵐山」の詩碑

3．委員会について 6

　1）開催の経緯（2019 年 3 月～ 12 月）

　2）委員名簿

4．主催・共催団体について 8

　1）主催団体：一般社団法人　日中国際文化交流協会

　2）共催団体：国際京都学協会

2章 開催事業について

1．献花式 10

2．記念講演（2019 年 5 月 20 日）..... 13

　演　題　「周恩来と日本　日本に果たした役割とは」

　講　師　戸毛敏美氏（ＮＰＯ大阪府日中友好協会副会長）

3．記念式典・祝賀会（2019 年 5 月 20 日）..... 25

　1）挨拶・祝辞

　2）開催風景

　3）周恩来元総理への大切な思い―。Chinese Messages

3章 後援・協賛

1．ご後援いただいた団体 38

2．ご協賛いただいた個人・企業・団体 38

　（個人）（企業）（団体）

4　章 資料

1．寄稿＜　法政大学教授　王　敏　＞ 40

　周恩来の対日「民間外交」の原点

　―百年後の「雨中嵐山」を読む

2．書の寄贈 67

3．新聞記事 68

4．協賛広告 70

1章　事業開催の経緯

1．事業開催の趣旨

中国初代首相の周恩来氏は「建国の母」「中国人民の父」とも呼ばれる。青年時代には日本で学ばれ半年余りを京都で過ごされた。当時の京都大学で新しい思想に触れその影響を大きく受けたといわれている。

１９１９年４月５日、日本を去るにあたり嵐山を訪れ「雨中嵐山」の詩を自らの心境を込め新体詩で詠まれたとされる。その後、周恩来氏は毛沢東氏らとともに混迷と動乱の時代に終止符を打ち、１９４９年「中華人民共和国」を建国。１９７２年には「日中国交正常化」を実現させ、両国の歴史に大きな足跡を残した。

本年２０１９年４月５日は周恩来元首相が「雨中嵐山」の詩を詠まれてから１００年。この新体詩は１９７９年「周恩来総理詩碑」に刻まれ地元京都の志ある多くの人達によってゆかりの深い嵐山に建立され４０周年を迎える。この機会に周恩来元首相の偉大な功績を称えるとともに日中の友好親善と一層の交流促進を図るためご賛同いただく多くの皆様方とともに記念の行事を開催することとした。

皆様方には趣旨にご賛同にいただきご協力賜りますようお願い申し上げます。

２０１９年４月５日

周恩来元首相記念事業委員会

委員長　尾 池 和 夫

一般社団法人　日中国際文化交流協会

会　長　松 田 和 典

代表理事　佐 藤 れ い

2．記念詩碑（「雨中嵐山」）について

1）周恩来元首相記念詩碑建立の経過

1978 年 8 月、日中平和友好条約が調印されたのを機に、子々孫々にわたる友好を願う心を表わしたいという声が巻き起こった。そこで京都にゆかりの深い、日中両国友好のために尽された周恩来元首相の詩碑を建立しようという運びに至った。

京都の日中友好団体を中心に、詩碑建立委員会の設立準備が進められ、1979 年 1 月 22 日、正式に設立され、第一回打合せ会が行われた。2 月 13 日、第二回打合せ会を行い、詩碑建立場所などが決められ、3 月 16 日には地鎮祭が行われた。

1979 年 4 月 16 日、ちょうどその時来日中であった鄧穎超女史（全国人民代表大会常務委員会副委員長、故周総理未亡人、当時）を京都にお迎えして、除幕式及び建立祝賀会が開催された。

2）「雨中嵐山」の詩碑

（碑文 内田病院（京都市右京区）所蔵）

額のいきさつ

日中友好協会の会長であった廖承志氏が、周恩来首相の「雨中嵐山」の詩を揮毫された書を、京都に来られた時にある市会議員に手渡された。その市会議員はどうしたらいいか分からないので、私にもらってほしいといわれ、ちょうど嵐山に近い所に内田病院ができるので飾れると思いいただくことにした。私の妹の主人・中野宏の父が、中国語が堪能であったので訳してもらい、今は一緒に内田病院の待合室に飾っている。（内田昌一氏談）

3．委員会について

1）開催の経緯（2019年3月～12月）

① 準備会3月5日（火）　会場：からすま京都ホテル
時間：午後5時～6時
議題「周恩来元首相記念事業について」

② 第1回3月26日（火）　会場：ヤサカ四条烏丸ビル
時間：午後5時～6時30分
議題「周恩来元首相記念事業の概要説明」について

③ 第2回4月10日（水）　会場：からすま京都ホテル
時間：午後6時～7時30分
議題「周恩来元首相記念事業の内容について」検討

④ 第3回4月27日（土）　会場：からすま京都ホテル
時間：午後2時～4時30分
議題「祝賀会等の開催について」

⑤ 第4回5月16日（木）　会場：ホテルモントレ京都
時間：午後6時半～8時半
議題「祝賀会の準備について」

⑥ 第5回12月17日（火）　会場：からすま京都ホテル
時間：午後3時～4時
議題：「事業報告のまとめ」

（会議風景写真）

2）委員名簿　※五十音順、敬称略

委 員 長：	尾池和夫	（京都造形芸術大学 学長）
副委員長：	安道光二	（ワタキューセイモア株式会社 会長）
副委員長：	田中彰寿	（京都府日中友好協会 会長）
委　　員：	位高光司	（京都経営者協会 元会長）
	市田ひろみ	（服飾評論家）
	内田俊一	（国立京都国際会館 館長）
	内田昌一	（京都青果合同㈱ 取締役名誉会長）
	王天佐	（中秋名月祭大阪 実行委員長）
	王百合	（和歌山大学 教授）
	朧谷壽	（同志社女子大学 名誉教授）
	河原玲青（何玲青）	（関西中華總商会 副会長）
	北川清一郎	（ナルックス㈱ 社長）
	杭迫柏樹	（日本書芸院 名誉顧問）
	児玉実英	（元同志社女子大学 学長）
	四宮陽一	（京都府日中友好協会 副理事長）
	杉橋隆夫	（立命館大学 名誉教授）
	高橋孟	（㈱京都華聯旅行社 社長）
	武部宏	（㈱プランツコーポレーション 会長）
	田中克彦	（嵐山保勝会 専務理事）
	田原義宣	（天龍寺宝厳院 住職）
	趙　琼	（彫刻家 米国・ニューヨーク）
	中島征夫	（ワタキューセイモア㈱ 顧問）
	中村京古	（吉田山荘 女将）
	中村順一	（元外交官・元ベルギー大使）
	西村明美	（柊家 女将）
	馬雲国	（関西中華總商会 会長）
	藤田裕之	（元京都市 副市長）
	町野覚	（京都府日中友好協会 理事長）
	村上光一	（日中国際フェリー㈱ 社長）
	村田晃嗣	（同志社大学教授 前学長）
	森義治	（㈱もり 社長）
	山岸久一	（元京都府立医科大学 学長）
	楊正武	（京都華僑総会 会長）
	冷泉貴実子	（冷泉家時雨亭文庫 副理事長）
	渡辺裕文	（前亀岡商工会議所 会頭）
主催者委員	一般社団法人　日中国際文化交流協会	
	会　長　松田和典	（日中国際文化交流協会）
	代表理事　佐藤れい	（日中国際文化交流協会）
	理　事　原田忠義	（日中国際文化交流協会）
	理　事　鮑 悦初	（日中国際文化交流協会）
	理　事　方 一如	（日中国際文化交流協会）

4．主催・共催団体について

1）主催団体：一般社団法人　日中国際文化交流協会

1　協会の目的

13 億人の人々が暮らす中国は、日本にかわり世界第二位の経済大国となり、その動向はあらゆる分野で日本に多大な影響を及ぼしている。隣国中国は日本にとって歴史的文化的にも深い関係にあり、経済的には今日、最大の輸出相手国であり、日本のインバウンド消費を支えている。しかし、両国の間には多くの課題が山積している。

こうした両国間の状況をお互い冷静に見つめなおし、関係改善と両国の発展に向けた地道な努力が求められている。なかでも、民間レベルでの文化交流の果たす役割は、情報化・多様化・グローバル化が進んだ今日の社会において、ますます重要度を増している。

当協会は民間レベルでの文化交流の拠点として、日中両国の交流に積極的な役割を果たし、相互理解の促進と友好親善に貢献することを目的としている。

2　協会の事業活動

① 日中交流事業：日中交流イベント等の開催
② 研究会、講演会、見学会等の開催
③ カルチャーセンター事業：語学（日本語・中国語）教室や華道・茶道教室、着物着付け教室、料理など
④ WeChat Payment 事業：訪日中国人などのキャッシュレス化を支援
⑤ ネットスタジオ事業：日本の文化・商品・催物などの情報等を中国・アジア圏に配信
⑥ 調査研究事業：企業、文化、観光、医療等のニーズに対応
⑦ その他上記に係わる事業

3　協会の概要

＜所在地＞ 〒 530-0041 大阪市北区天神橋 2 丁目北 1-10-202

＜組織＞	会　長	松田和典（MGM 研究所 所長）
	代表理事	佐藤れい（日中国際文化交流協会）
	理　事	鮑 悦初（㈱廣記商行 会長）
	理　事	方 一如（大阪歯科大学 特任教授）
	理　事	原田忠義（ザ・クラブジャパン関西 会長）

（2019 年 5 月 3 0 日現在）

2）共催団体：国際京都学協会

1　会の経緯・めざすもの

国際京都学協会は 3 年余りの準備期間を経て、2003 年 11 月 3 日に設立。初代理事長故米山俊直（京都大学名誉教授、元大手前大学長）、二代目芳賀徹（静岡県立美術館名誉館長、東京大学名誉教授）を経て、現在は尾池和夫（元京都大学総長、京都造形芸術大学学長）が理事長をつとめています。

京都は、歴史都市、産業都市、宗教都市など様々な要素が重層的に重なり合う、文化複合体です。国際京都学協会は、多様な専門分野の蓄積を総合し、市民と産業界・行政・大学等との橋渡しをはかり、産官学民の協力・共働によって、京都の現在・未来に貢献することをめざして活動しています。

＜基本理念＞

“ 京都力 ” を結集して、よりよい、国際的な京都を創造する

＜活動方針＞

歴史・文化・伝統・芸術・芸能・学術等々の多面性と広がりを持つ京都の特性に着目、総合的な視点で京都学を構築する。そのため、ひろく国内外の人々を結集し、産官学民の共働の機会を創出。世界の中の京都について忌憚のない意見や提言を世界に向けて受発信する場を形成していきます。

2　活動テーマ

（1）会員相互の交流促進

（2）産学官民の連携強化による各種提言

（3）京都力を発揮できる人材の発掘・育成の促進

（4）京都学に関する学習機会の提供

（5）各種団体との交流事業の開催

3　活動内容

1．国際京都学セミナー（例：京の着倒れ、平安京の仏たち、香―何故、京文化　他）

2．特別講演会（例：平安京と東アジア　他）

3．交流会・懇談会・見学会（例：若狭見学会、古代丹後見学会　他）

4．シンポジウム（例：「古典のみやこ　みやこの古典」　他）

5．ニュースレターの発行（国際京都学だよりの発行）

4　顧問・役員（敬称略）

（役員等）　会長　芳賀徹、理事長　尾池和夫、常務理事・事務局長　松田和典

理事 40 名、監事 2 名が参加しています。

（名誉顧問）千 玄室

5　協会本部所在地

〒 604-8383 京都市中京区西ノ京小堀町 2-53

（2019 年 5 月 3 0 日現在）

2章　開催事業について

1．献花式

●日時：　2019年4月5日（金）午後1時～

場所：　「雨中嵐山」詩碑前

○この日は、周恩来元首相が「雨中嵐山」を創詩された記念の日として知られている。

●日時：　2019年5月20日（月）午後1時～

場所：　「雨中嵐山」詩碑前

式次第　1）ネイティブフルートの演奏

2）開会の辞

3）四宮陽一氏（京都府日中友好協会副理事長）による詩碑の説明

4）献花

○笛の演奏とともに献花式を始める。主催者の開会の辞の後、「詩碑」について京都府日中友好協会 副理事長・四宮陽一氏より説明がなされた。その後、献花を順次行った。

（四宮陽一氏の説明）

それでは皆様のお時間を少しいただいて、周恩来総理とこの雨中嵐山の碑について語らせていただきます。

今から102年前のことです。1917年の9月、一人の青年が天津の港から日本へ向かう船上の人となりました。南開学校を首席で卒業した19歳の周恩来です。青雲の志を抱いたこの若者は、中国を離れるに当り『大江に歌うをやめ、頭を巡らせて東へ向かう』という決意の詩を作りました。大江というのは揚子江のことです。この2年前、日本は中国に21カ条の要求を突き付けていました。また、周青年の滞日中にロシア革命が起こっています。帝国主義が大きな曲がり角を迎えようとしていた激動の時代です。

東京に着いた周青年は、神田周辺に住まいを見つけ、3年前にできたばかりの東亜高等予備学校に入り、日本語の勉強を始めます。この学校を設立したのが静岡県掛川市出身の松本亀次郎先生で、周青年とは長く子弟の関係を結ぶのです。この学校は、設立以来魯迅も含め延べ2万人に及ぶ中国人留学生の学ぶ場となるのですが、本日はこの松本亀次郎先生と周恩来を顕彰する会の皆様が、掛川市からおいでになっています。

さて、東京で学び始めた周青年ですが、そこはやはり迷い多き若者ですから、中国へ一時帰国したりもします。ただ、東京へ戻った後、1918年の12月を境に忽然と消息が途絶えるのですが、その周青年が再び鮮明に姿を現すのが、この京都の嵐山というわけです。

京都での周青年の動きには謎が多いのですが、河上肇教授の授業に憧れて京大入学を目指し、願書まで書いたものの結局受験はしなかったといわれます。そして今から 100 年前の 1919 年 4 月 5 日、この雨中嵐山の詩を作るのです。

『雨中、再び嵐山に遊ぶ。両岸の蒼松、幾株かの桜を交じう』から始まるこの詩には『一線の陽光、雲を貫き出ずれば、いよいよ美しくあでやかなり』という有名な一節があります。21 歳の周青年は、この詩に暗示された決意を抱いて日本を離れ、大連経由で天津に戻り、中国の五四運動に身を投じます。

その後の周恩来については説明を要しませんが、個人的には 1972 年、私がまだ学生であった時、国交正常化の場面で、田中角栄、周恩来の両総理が大きく何度も握手を交わした映像は今も強く目に焼き付いています。

さて、この詩碑の話です。この詩碑は 1979 年に当時の国貿促（日本国際貿易促進協会）京都総局をはじめとする日中友好関係諸団体の力により所縁のこの地に建立されました。周恩来総理は 1976 年に 77 歳で亡くなっていますので、残念ながらこの碑を目にされることはありませんでした。ただ、この詩碑の除幕式には、愛妻家として知られた周総理の未亡人、鄧頴超氏が列席され大いに感激されたといわれています。

詩碑の話を閉じる前に改めて、今私が手にしているこの本（『証言・周恩来の実像』）から特に印象に残った周総理のエピソードをご披露致します。

【周恩来総理のエピソード】

1　岡崎嘉平太

世界の四大聖人は「キリスト」「お釈迦様」「孔子」「ムハンマド」といわれているが、この際、「孔子さん」には悪いが同じ中国人でもあるし、聖人の座を周恩来総理に譲ってほしい。

2　エリザベス・コンバー（イギリスの女流作家）

アメリカのケネディ大統領の未亡人、ジャクリーン・オナシス夫人は、私の親友でよく手紙をくれる。ある時、「世界で尊敬するのはただ一人、周恩来です」というので驚き、「周恩来をそんなに崇拝しているのか？」と尋ねてみたら「オーイエス、周恩来一人だけよ！」と夫の大統領をさしおいて答えた。

3　田中真紀子

父は早起きで、毎朝 5 時に起きて仕事を始める昼型人間。一方、周総理は長い戦争時代の習慣から夜型人間。周総理は父の生活習慣をすべて心得ていて、父の訪中が決まると、自分が相手の執務時間に合わせなければよい結果は出ないと考え、2 カ月前から父の生活習慣に合わせる訓練をしておられたということを知って感動した。

※周総理は、戦争中に右腕を痛めて障害が残った。その右手の様子を見ながら「日本との戦いで受けた傷だな」と心の中で思った。しかし、周総理がそのことについて一言も触れることはなかった。

『京都が出てくる箇所』

・小川平四郎（初代駐中国大使）

大使の任期を終えて帰国した後、周総理について調べる中で新しい資料が見つかった。それは 1919 年 4 月 5 日、周総理が中国に帰る前に書いた詩「雨中嵐山」だった。その詩は今、石碑に刻まれ京都の嵐山にある。

・萩原定司（元国貿促副会長）

周総理は若い頃、日本に来たことがある。われわれに会うと、時として桜のことを話したり、京都のことを語ったり、東京で豆腐料理を作ったことを話し、私たちにとても親しみを感じさせてくれた。

このように世界の要人から尊敬を集めた周総理ですが、その遺言は「葬式は極力質素に、骨は中国の土に返して欲しい、墓はいらない」というものでした。ですから周総理のお墓は中国にありません。

私は、その意味でこの雨中嵐山の詩碑が、周総理の偉業を偲ぶお墓ではないかと考えるものです。そして、この詩碑は単に私たち京都市民の誇りであるばかりでなく、周総理が日本国の恩人であることを思えば、日本の宝と呼んでもよいと思えるのです。これからもこの詩碑を皆様と一緒に大事に守り、外に発信していきたいと思っています。

本日はどうもありがとうございました。

2．記念講演（2019 年 5 月 20 日）

演　題　「周恩来と日本　日本に果たした役割とは」
講　師　戸毛敏美氏（ＮＰＯ大阪府日中友好協会副会長）

○はじめに

皆さん、こんにちは。名前はとげとげしい名前ですが、いつもにこにこ笑っていますので、どうぞよろしくお願いします。今日は、こういうご縁があって、皆さんに周恩来のお話ができることをとてもうれしく思って、喜んでまいりました。

今年は、周恩来が帰国してからちょうど 100 周年、それから中国での五四運動から 100 年、中華人民共和国建国 70 周年、この建国にあたって、まず中国で運動が始まったのが五四運動です。ですから、五四運動 100 周年なのですね。五四運動というのは、中国の青年の日なのです。

でも、私は、中国にいたとき「青年の日」といったら胸が痛かったです。なぜかというと、青年の日が生まれたのが、日本が中国に「国辱 21 カ条」というのを突き付けたのが発端なのですね。第一次世界大戦でドイツが負けた、その中国におけるドイツの領を日本によこせと要求したのをいったん中国の政府は断ったのですが、パリ講和条約のときにそれを認めるのですね。それを知った中国の学生たちがまず抗議デモをしました。それが五四運動だからなのです。

もう一つ、中華人民共和国建国 70 周年、国歌を見てください。こういう歌詞です。私はいつも、五輪でも勝って五星紅旗が揚がると胸が痛みます。この歌詞は、抗日戦争のときの歌詞そのままなのです。そういう中国の人たちの気持ちをぜひ少しでも分かっていただきたいという思いで、この壇にあがらせてもらいました。

○中国の素晴らしい哲学

私がぜひ皆さんに知っていただきたいのは、中国の素晴らしい哲学です。一つが分かれて二つになる。どんな人でも、どんな物事でも、どんな国でも、いい面もあれば悪い面もある。でも、日本のメディアは、悪いことばかり書きますね。でも、皆さん、ぜひいい面を探してください。必ずいい面があるし、その両方に目を向けましょう。例えば日本人は十把ひとからげではない。軍国主義者もいれば中国人民と仲良くしようとする日本人もいると考えています。中国には中国人といっても必ず反日の人もいる。ですから私たちは親日派の人と仲良くする。何事も二つに分けて考えるのですね。そういう考え方を私たちは学び、長所を取って短所を補わなければならないと思います。

そして、日本では「和を以て貴し」はいうけれど、中国はもう一つ、「和して同じず」、同じでなくて当たり前だよと。特に、矛盾論とか、日本では何かトラブルが起きると、ああ大変だ！悪いことだと思いますね。でも、中国の人たちは、トラブルがあって当たり前、言葉も違うし、文化も違うし、歴史も違うし、環境も違うから、意見が合わなくて当たり前だと考えます。それをいかにして解決するかが大事なんだ。そういう哲学を私は中国で学んで、すごく感激しました。ぜひ皆さんにも知っていただきたいと思います。

日本は、禊（みそぎ）の精神で、何でも捨てちゃう。けんかして仲直りするときは、過去は水に流して、小異を捨てて大同につく。中国は小異も捨てない。絶対に捨てない。求同存異、同じところを求めて異なっているところは残しておく。これが大事ですよと。捨てろといっても捨てられませんよね。こういう中国の哲学をぜひ皆さんに知っていただきたいと思います。

○毛主席や周恩来の言葉

ここに毛主席が「あなたたちは私たちの先生です。まさにあなたたちの戦争が中国人民を教育し、砂のような中国人を団結させたのです」と。これは、遠藤（三郎）、昔の軍の参謀かな。その人が戦争の末期に日本軍部のやり方に反対して、帰国してからも中国との友好運動をした、その方が毛主席に会ったときに、毛主席がおっしゃった言葉です。

このことは、まさにそのとおりなのですね。例えば、いまからもお話ししますけれども、日清戦争の後に中国の人はびっくりしたのですね。大清帝国といばっていたのに、なんであんなちっちゃな、弟分の日本にこてんぱんにやられたんだろうかと、いまよりももっと多くの人たちが明治維新を学びに中国から来日しました。代表的な二人といったら、康有為と梁啓超です。この二人が、日本のように立憲君主にして中国も強い国になろうといって、清朝に提案するのです。清朝はいったん受け入れるのですけれども、一部の右派が、これはクーデターやといって戊戌変法を弾圧しました。

そのときに、中国の維新派を誰が救ったと思いますか。私が調べたら、日本の大使館、領事館。みんなビザを出して、維新派を日本にかくまっているのです。日本に来てから、日本の人たちがみんな世話をしてあげて、２年後に中華民国ができたら、みんな帰りました。どうでしょう。

そしてもう一つ、京都が第二次世界大戦のときに爆撃されませんでしたよね。中国の子どもたちはみんな知っています。なぜでしょうか。実は、この梁啓超という、明治維新を学びに来た方の息子さん梁思成が、日本で建築学を学んで、世界的に有名な建築家になりました。彼の奥さんも建築家。この二人が、アメリカ、イギリスと全世界を回って、「奈良と京都は日本だけの遺産じゃないよ。これは全世界の遺産だから、絶対に爆撃するな」といって回ったのです。そのおかげで奈良と京都は守られたのですね。そういうこともぜひ皆さんに知っていただきたいと思います。

それから、周恩来さんがよくおっしゃっていた言葉に、「中国の受けた痛みはお金では片付けられない。それほど重かった。今後、それは日本と中国との友好関係で償っていきましょう」と。そして、「日本と中国というのは何千年という友好往来の歴史があって、けんかしているのは、ほんのちょっと、短いんだよ」。よくそういうお話をされました。そのことも私たちが知っておくべきだと思います。

軍国主義は確かに悪いことをした。しかし、日本の人民はいいこともいっぱいしました。そういうことを私は大学の授業でも必ず学生にいっています。卑下しなくてもいい。知ったら、私たちは誇りに思う。日本の人民として誇りに思うべきだよ。そういうことがたくさんありますので、今日はそのお話もしたいと思います。

○「雨中嵐山」の序幕式

先ほど皆さん、嵐山に行かれましたね。実は、あの除幕式のとき、私は日本側の通訳として、あの場にいたのです。実は、その前の晩からずっとしとしと、しとしとと雨が降っているのですね。ですから、私たち事務局は、まさに「雨中嵐山だな」といってテントを張って、テントの下で開会式をやりました。

ところが、鄧穎超さんがお話しするちょっと前に、雨がやんだのです。みんな、ああ、よかったと喜んでいました。そうしたら、鄧穎超さんがテントから出て、詩碑の前まで行かれて、二言か三言しゃべったときに、なんと奇跡が起きました。雲間がぱっと割れて、太陽の光がぱっと、まさに詩のとおり、一線の陽光が射したのです。ですから、鄧穎超さんは原稿を読みやめて、「皆さん、見てください。私たちがここで除幕式をしている、この心が周恩来同志に伝わったみたいですよ。まさに、この太陽の光が日本と中国の友好関係の将来を表しています」とおっしゃったのですね。私たち参加した人はとても感動しました。まさかこんなことが起きるとは思いませんでした。そういう思い出が私にはあります。皆さん、ぜひもう

一度、石碑のことを思い起こしてください。

○日本と中国の近代の関係（日清戦争～）

日本と中国の関係では、日本は 50 年間、中国を植民地にしたということをお話ししたいと思います。私は中国の学校で歴史の勉強をしたら、日本と戦争をした覚えはない、日清戦争をした覚えはないというので、びっくりしました。えっ。日清戦争というのは、向こうでは甲午戦争というのですね。そして、旅順で 2 万人の虐殺をしました。36 人の遺体処理の屈強な男を残して、赤ちゃんからおじいさんからみんな殺しました。

なんでそんなひどいことをしたのでしょうか。それは最初に一遍、李鴻章の軍隊が日本軍を攻撃し、日本軍は負けたのです。そして捕まった兵士の首をさらし首にしたのです。日本でも昔、さらし首をやりましたよね。封建時代はね。それを日本のメディアが針小棒大にいって、中国人がいかに残酷であるかを宣伝しまくって、そして 2 万人虐殺に至ったとのことです。中国のメディアでは反省していましたけどね。「そういう残酷なことをするのはよくなかった」と。でも、日本だって昔はやっていた。そういうことで 2 万人を殺したのですね。そういうことをぜひ知っておいてください。

そして、賠償金を取りました。銀 2 億 3 千万両といったら分からないけれど、私が調べた当時の日本の国家予算の 4 年半、ある人は 5 年分だといっています。莫大な賠償金を取ったのですね。それは、私がいまからお話しする中で聞きました。

○周恩来の日本留学とその後

今日は周総理のお話なので、周恩来についてお話ししたいと思います。周恩来が生まれたのが、まさにこの戊戌変法の時代で、お先真っ暗で、あの歌詞のとおり、暗雲垂れこめて、その中で彼が 19 歳のときに、日本の明治維新に学んで中国も立憲君主で強くならないといかんと、たくさんの学生と一緒に中国から日本に来たのです。彼も勉強に来たのです。

ところが、ゆっくり日本語を勉強できる状況ではなかったと、私が初めて周総理にお会いしたとき、おっしゃっていました。なぜかというと、1915 年に例の 21 カ条を突き付けたから、中国の人たちは反対しましたね。まさにその時代に来たから、中国から留学している学生たちが、「抗議しよう、中国に帰ろう」といった。「でも、僕は日本を学びに来たのだから、日本に残る」といって残った。

しばらくしたら、1918 年 5 月に日中共同防敵軍事協定という密約を結びました。日露戦争も満州事変も、なぜあれだけたくさんの日本の軍隊が満州にいたのでしょうか。実は、この密約協定です。だから、中国の人たちは怒っていますよね。「清朝政府は何だ」と。自分の国の領土を日本に渡して、口実はロシアが攻めてこないように中国を守るというけど、おかしいではないかといって、日本にいる留学生たちも帰国しようという運動がありました。周総理は、「でも僕はやはり日本に来てマルクス主義、共産党宣言を見たので、もっと勉強したい」とおっしゃっていました。周総理に聞いたのですが、「実は、僕は京都大学の河上肇に師事したくて京都に来たんだ」とのことです。

ところが、密約ができて、みんな帰るというので、どうしようかなと迷って、嵐山で考えて、そうだ、やっぱり。なぜかというと、日本の人たちがこういったんですって。明治維新は、鳥羽伏見の戦いのように下級武士が立ち上がって幕府を倒したんだよ。あんな戊戌変法では駄目だと日本の人たちにいわれて、そうかと分かったのが、あの一点の光明なのです。あ、そうなんだ。パリのように、下から革命しなくちゃいけないといって、彼は四月帰って、ちょうど五四運動があったので、五四運動に参加して、そしてパリへ行くのですね。パリに行って、鄧小平さんとか、中国の革命的な立派な人たちは、みんなパリで出会って

共産党をつくったのですね。

そして、周恩来は中華人民共和国まで、日本との戦いを指導したのです。片手が不自由なのも、日本との戦いで馬から落ちてけがをしたからだそうですけれども、そういうことで、ずっと戦争をしていました。そして、日本にやっと勝って、中華人民共和国をつくって首相になりましたね。

○周恩来の首相時代－「綿花」の逸話

でも、彼が首相になったときは、とても大変なときだったのです。ずっと戦争が続いて経済はめちゃくちゃ。中国では、民は食をもって天となす。まずおなかいっぱいにならなくてはいけません。でも、衣食足って礼節を知るといっても、着るものがなかったら駄目ですよね。そうすると、畑の取り合いですよ。綿花を植えるのと、食糧を植えるのと。「糧綿搶田」といって、食糧の栽培地と綿花の栽培地の取り合いだったのです。私が中国の北京十二中学に行ったら、運動場をワタ畑にするという。えっ。そういう時代だったのです。運動場もやめてワタを栽培しようと。そうしないと畑には食料も植えなくてはいけない。そういう時代でした。

ここで一つ、周恩来と綿花の話をしたいと思います。あるとき、周総理が会議のため地方に行った際、護衛していた兵士が、周恩来さんのタオルを見たのです。タオルはつぎはぎだらけだったので彼は、わが国の首相がこんなぼろぼろのタオルでは申し訳ないといって、新しいタオルを買って置いておいた。周総理がそれを見て、「駄目だ。返してきなさい。ぼろのタオルでもいい。見てご覧なさい。何億の中国人にはまだ綿布がゆきわたらない。十分にタオルももてない時代だ」。そういうお話を聞きました。私はそのときに涙が出ましたね。

ですから、周総理が亡くなって歴史博物館で周総理の記念展示会があったときに、私は見に行き、そのタオルを見ました。また涙が出てきました。多くの見学者も涙していました。本当に中国の人たちの心を思っている。そういう首相でした。

○中国要人と日本との関わり

では、いまから、私たち日本との関係を紹介したいと思います。毛主席がおっしゃったように、日本に学びに来た人が日本の人たちに教えられて、立派な共産党の幹部に次々となったのですね。これが一つの証拠ですね。たくさん例がありますが、例えば、初代の大使館の副総領事の米国鈞さんも、日本に勉強に来ていたのです。そして革命家になった。それから、ＬＴ貿易事務所代表。肖向前さんとか、孫平化さん。この人たちもみんな日本で勉強して、革命家になったのですね。ですから、まさに毛沢東がおっしゃったとおり、軍国主義は悪いことをしたけれど、中国人民を団結させた。日本の人民がたくさんの幹部を養成したのですね。日本がマルクスの書籍をいち早くドイツ語から漢字に直したのです。だから、「経済」とか、「共産党」というのは、中国の人達がみんな日本から持ち帰った言語なのです。

中国共産党をつくった李大釗、この人も大学卒業後、日本に勉強に来て、マルクス・レーニン主義を学んで日本から中国へ持ち帰り、共産党をつくったのです。まさに毛沢東がおっしゃっているとおりです。

○ 1952 年の二つの出来事

中華人民共和国ができてから、1952 年に二つの大きな事柄がありました。一つは、東西両陣営の勢力がモスクワに集まってモスクワ会議を開いたのですね。そして、冷戦構造を打ち破ろう、そのためには貿易促進をやろうということで、日本も大会を開いて代表を選びましたけれども、日本国政府は出国を禁止しました。でも、三人の代表がほうほうのていで参加しました。一人が女性で、高良富さんという参議院

議員。彼女は、学会参加という名目で日本を飛び出して、ヨーロッパを回って参加しました。二人の社会党の議員も、別の名義で国を出て、ヨーロッパを回ってモスクワに行って、この会議に参加しました。

それを毛沢東と周恩来が聞いて、この三人を北京にお呼びしなさいと雷任民さんにいうのですね。この三人はイリューシンに乗って北京へ来るんですよ。そして、しばらく中国の建国の状況を見学して、当時、私たちのパスポートには、中華人民共和国には行ってはいけないとありました。国禁を侵しているのですね。でも、彼女達は毛沢東、周恩来の招きで北京に行き、そこでなんと日中民間貿易協定を結ぶのです。そして「何とかして、中華人民共和国を日本政府に認めさせよう」「それにはどうしたらいいか」周恩来と話をして、2年おきに日本で中国商品展、それから、今度は中国で日本商品展をと、交互に展覧会をやって、貿易促進をしましょう。モスクワ会議の後すぐに、中国では中国国際貿易促進委員会、日本では日本国際貿易促進協会がつくられ、私が参加した関西本部もそのときにつくっているのですね。だから、来年がちょうど70周年です。そういうことで、貿易の拡大に、私は貢献できました。周総理は中国人民を指導しただけでなく、私たち日本人民をも指導してくれたと思って、みんなに話しています。まさにそのとおりなのです。そういうかたちで貿易が再開されて、経済貿易の交流は日中国交正常化までつながっていったのですね。

○日本の戦争賠償問題

それから、もう一つ、中華民国とこの年に日本は国交を回復しているのです。そのときに、当時の中華民国を代表する蒋介石は、日本に対する戦争賠償権をどうしましたか。放棄しましたね。でも、中華人民共和国はすでにできています。では、中華人民共和国はどうするか。

ちょうど私が中学生のときに、歴史の授業でその討論をしました。全国的に討論会を周恩来総理の指導で行ったのですね。私はもちろんその会に参加するつもりでした。ところが授業が始まる前に、先生に呼ばれて、「あなたは日本人だから、この授業は出なくてもいいよ」といわれました。出なくてもいいということは出てもいいということだと。出てもいいと思って、「先生、隅っこでもいいから聞かせてください」といったのです。先生はとても困った顔をして、しばらく考えてから、「許可します、いいでしょう」といいました。

でも、先生が困った理由が分かりました。授業が始まったら、みんな泣きながら、なぜかというと、北京では三光政策、奪い尽くし、殺し尽くし、焼き尽くす政策を日本軍は行ったのです。私の友達でも、お父さん、お母さんが目の前で殺された人がたくさんいたのです。その人たちが泣きながら、「どうして賠

償金を取らないんだ。蒋介石のばかたれ」と。

ずっと話がさかのぼって、「日清戦争で賠償金を取られた」と友達が泣きながらいうのは、おじいちゃん、おばあちゃんから聞いているのですって。厳しい税の取り立てがあって、赤ちゃん一人、おじいちゃん一人にも税の取り立てがあって、中国の人たちが一挙に貧しくなったそうです。だって、清朝政府はそんな大金、銀2億3千万両なんてないから、全世界の銀行から借りまくった。1895年、中国では馬関条約、日本では下関条約というのを結んで、銀2億3千万両を全世界の銀行から借り、それを返したのが1935年ですよ。利息を含めて10億両を40年間かかって返済しているんですよ。だから、40年間、厳しい税の取り立てがあって、中国の人たちが一挙に貧しくなったと、友達が泣きながらいうんですね。

散々泣かせてから、先生が突然、「毛主席は次のようにおっしゃっています」と。三つのことをいいました。一つは、中国では「好漢不当兵」といい、いい男は戦争に行かないよね。でも日本は違うんだよ。赤紙が来て行かなかったら、その一族がみんな非国民として、本人が拷問されるだけでなく、一族郎党みんな国賊といわれたんだよ。二つ目に、軍隊に入ったら、上官の命令は天皇の命令だ。「中国人を殺せ」といわれ殺さなかったら、その人が後ろからぼんと殺されたんだよ。三つ目に、中国のことわざに、自分がしてほしくないことは人に施すな、「己所不欲、勿施于人」ということわざをいって、「被害者ってつらいよね。みんないま泣いたよね。では、同じ苦しみ、同じつらい思いを日本の人民にさせるのですか」と先生がいった途端に、教室が騒然となり、みんな、前の子と、横の子と討論し始めて、一人、二人と賛成して、最後に全員が賛成したとき、私はみんなと抱き合い、泣いてしまいました。

そして、思わず立ちあがりましたね。「実はこの授業が始まるときに、先生は、あなたは出なくてもいいといったけど、私は出てとてもよかったと思います。皆さんの気持ちがよく分かりました。私はいずれ日本に帰るから、必ず、一人でも多くの日本の方々に、皆さんのこの気持ちを伝えます」。でも、最後に、「日本は一度も他民族に蹂躙されたことがないから、どれだけ分かっていただけるか自信はないけど、頑張ります」と、中学生でしたけれども、みんなに約束したんです。これが私が中国から帰ってきた唯一の目的です。その目的のためにどうするべきか、いろいろ考えました。

○私の目指したもの－日中の貿易の橋渡し

23歳の女の子が、いま考えればどえらいことを考えていました。ここにもたくさん貿易関係の方が参加されていますが、私は何とかして経済界を動かそうと思いました。政治運動に参加するのも一つの方法ですね。でも、中国では経済が基礎だ。政治は上部構造と習ったので、何とかして経済界に入ろうと。

そしてチャンスが来ました。もう一回、周総理が私たち日本人を指導したのが1960年です。その前に、日本の人民が日米安保条約反対運動を起こしました。私も赤ちゃんを背負ってデモに参加しました。国会をデモ隊が包囲し、樺美智子さんが亡くなりましたが、条約は強行採決されました。本当に全日本の人たちが立ち上がって、デモをしましたよね。あれは、中国を敵とした安保条約だったから、みんなが反対したのですね。

毛沢東が日本の人民は偉大な民族だとおっしゃったけど、多分中国の人々はなかなか信用しなかったと私は思います。さっき1952年に日中民間貿易協定を結んで、1954年に本当は東京と大阪で展覧会をする予定だったのですが、準備が間に合わなくて、1955年に東京と大阪で中国商品展覧会をやりました。

そのとき、中華人民共和国の旗も掲げ、何とかして日本政府に認めさせようとしました。右翼は反対しましたよ。東京展覧会は勝鬨橋を右翼に占領されたので、東京では50何万人しか来場できなかったとのこと。大阪の中之島では120何万人が来場したそうです。押すな押すなでね。このようにして、五星紅旗は守られました。

そして、1956年に北京と上海で日本商品展覧会が開かれました。私はうれしかったですよ。だって、イギリスが一番初めに中華人民共和国を認めたのに、イギリスの展覧会もやっていない。ソ連の展覧会はやったけれども、資本主義国ではどの国の展覧会もしていないのに日本で最初に開催されると聞き、うれしかったですよ。

さあ開幕といったその日に、北京各地で騒然となりました。展覧会で何か問題があった。私はみんなに付いて行ったら、みんなが怒っている。「なぜ日の丸を揚げるんだ。抗日戦争で何千万人の人たちがそのために戦ったじゃないか、降ろせ」と。みんな、労働者や市民がどんどん来ているのですね。学生も。

しばらくしたら、偉い人が来て、「みんな怒るな。そこに座れ。いまから説明するから」。みんな座りました。「同じ日の丸でも、昔は軍国主義を代表したけれど、いまの日の丸は中国と仲良くしようという、日本人民を代表しているんですよ」と。

それだけでもなかなか納得しなかったですね。この間も、私が中国の学生にその話をしたら、「中国の人は怒ったでしょう」と。「うん、怒ったよ」とその話をしました。

でも、忙しい中で毛沢東が、スカルノ大統領を空港に見送った帰りに、突然、展覧会に来るんですよ。「予告していなかったけど、見学してもいいでしょうか」と来たので、みんな喜んだそうです。森井庄内さんのお話を聞いたことがあります。みんな、「毛沢東が来た」といって喜んで、「どうぞ」と。そしたら、毛沢東は事細かく、一つ一つ全部見て、「日本民族は偉大な民族だ。私たちは皆さんに学ばなければならない」とずっといって、最後に「この展覧会の成功をお祈りします」と揮毫して帰られ、この様子があくる日の『人民日報』に報道されました。

私は、中国の人たちはそれを見て、毛沢東がいっているんだから、日の丸はいいかと認めたのではないかと思います。でも、いつ行っても、剣付鉄砲（小銃）を持った二人の兵士が日の丸を守ってくれていました。でも、この間、南村（志郎）さんの本を読んだら、彼が行ったとき、おばあちゃんが日の丸の旗の竿に抱きついて、降ろしてくれと泣いているのを見たという。そういう中国の人たちの日の丸に対する考え方は、なかなかふっ切れないものがあります。それを毛沢東、周恩来が繰り返し、繰り返し教育して、展覧会場の日の丸は守られていったのですね。そういう歴史がありました。

そういうことで、日本の展覧会も無事成功して終わりました。その後、繰り返しあって、毎回展覧会をやると、ここでも中国に対する禁輸政策（ココム：対共産圏輸出禁止、チンコム：対中国輸出禁止）といって、いろいろ妨害がありました。それから、1958年に、さっきいったように、みんな着るものがなくて、綿布は確か一人1年3メートルだったかな、ということで、例えば、私がシャツを買いに行ったら、友達が、「そんな、ちょうどいいシャツを買っては駄目。新しい服で3年、古くなって3年、つぎはぎで3年、9年間着なくてはいけない。ここに袖上げをして、肩上げもして」といわれて、えっ、そんなの嫌だといったら、「駄目」といわれて。

そういう時代、周恩来がぼろタオルを使っていた時代でしたから、日本にいい繊維がある、合成繊維があるといって、クラレのビニロンを輸入することになりました。（※ビニロンの原料は石灰石、中国では豊富にある資源。これを電解してポバールにしてビニロン繊維にする）中国が初めて化学工業繊維代表団を派遣して、まずこのクラレと話をしました。大原総一郎さんは、この人が1950年に開発したのですが、「喜んで技術も提供しましょう。日本軍はかつて中国を侵略して、中国の人たちにたくさんの迷惑を掛けたから、私のこの繊維が役に立つなら喜んで」と1月に契約したのですが、1958年に長崎国旗事件というのがありました。長崎で中国の切手切り紙展があり、右翼が中国の国旗を降ろして、足で踏みにじった。もちろん逮捕されました。

そのときの首相は誰だと思いますか。いまの安倍首相のお母さんのお父さん、岸信介。A級戦犯ですよ。

なぜA級戦犯になったのでしょうか。これは中国侵略と関係があります。彼が満州時代に犯した罪で、A級戦犯になったのです。なぜ釈放されたのか、調べてください。私も調べて分かりました。

そういう首相だから、器物破損だ、ただの切れっぱしだといったのです。かたや中国は、毛沢東が行って、日本の日の丸を守って、解放軍が守ったのに、それは怒りますよね。だから、日中貿易は中断してしまいました。そのときに私は中国から帰ってきたのです。

でも、安保条約反対があって、中国人民は、やっぱり毛主席がいったとおりだ、日本民族は偉大な民族だといって、そういう雰囲気が1959年に盛りあがりました。そして、周恩来が中国と友好的な人と友好貿易をしましょうといって、すべての会社じゃない。中国と仲良くしようとする人たちとの貿易を再開しました。

そういうときに、私がたまたまご縁があって、ニチメンに入りました。いまは双日といっています。うれしかったですね。「やった」と思いました。だって、上から下まで「戸毛君、中国はどういう国かね」。いつも中国の話をして、社長さんも喜んでくださいました。ニチメン自体がもともと中国との綿花の貿易でできた会社だから、中国と早く国交を正常化したいと、下は女性社員まで、中国の女性はどうかねと質問して来ました。

当時、私たち女性は、結婚したら辞めると書かされたんですって。私もあるとき、ニチメンにいて、部長にいわれて客先へ行って帰ってきたら、部長が「戸毛君、何かいわれなかったか」というから、「いいえ。なんでそんなこと聞くんですか」と聞いたら、「いや、社長が怒鳴ってきたんだ。ニチメンという大会社が、おなごを派遣して、わが社をばかにしているのか」と。そういう時代ですよ。ですから、1964年に「国際貿易促進協会関西本部が中国語のできる人を募集している。男女同一労働、同一賃金だから、戸毛君、紹介してあげる」といって、私は国際貿易促進協会に入りました。それで丸々30年間、日中貿易発展のため、周総理の遺志を継いで、何とかして貿易を促進させようと努力して参りました。

でも、その国交正常化までの20年は、私にとってはとても長く感じました。ですから、1970年に国連における中国の地位が回復したと聞いて、私達はその晩、みんなと喜んで宴会をして、眠れませんでした。うれしかった。ああ、国交正常化はもうすぐだということで、やっと1972年に国交が正常化しましたね。

○中国経済の転換点

正常化してから、私たちはいろいろな交流をして、気が付いたことがあります。あ、計画経済はもう終わりだなと思いました。中国では、何事も天の時、地の利、人の和、この三つが大事。1978 年「天の時」とは経済が発展し、改革開放を必要としていました。例えば紡績工場に行くと、綿布がどかんと山積みされているんです。どうしてと聞くと、「こんなありきたりの綿布は売れないんだ」と。どうしたらいいのかねと聞いたら、もっときれいな色に染めたり、プリントしてきれいな柄の布をみんな欲しがっているとの事。よっしゃ、分かった。日本でもそういう服など輸入したかったので、大阪の染料会社、染色関係企業とか、アパレルの会社みんなにお願いして、どんどん交流しました。

いまでは中国の MADE IN CHINA の服がなかったら、私たち着るものがないような状況、履くものでも MADE IN CHINA、食べるものも MADE IN CHINA。私はそれを見たらとてもうれしく思います。やったあ、と思います。私の主な目的は、国際貿易促進、当時、中国では外貨がなかったから、輸入を拡大して、外貨を稼げたら、私たちが輸出したいもの、中国が買いたいものがたくさんあったんですね。お金がない。ということで、私の主な任務は輸入の拡大でした。ですから、私の中国語を生かして、交流をして、技術交流をして、中国の商品の付加価値を上げました。だって、１キロの綿花では幾らにもならないけど、アパレルにしたら、いい服になったら、もっといい値段になりますよね。そういうことで、付加価値を上げるためにたくさんの交流をこの口でやりました。

工場で変な服ができて、「なんでこんな変な服」と「工場に行ったことがある」と聞くと中国の工場は見たことがないとのこと。どうしてと聞くと、「中国は開放してない」。よっしゃと、私は一人で、中国の紡織工業部とか、紡織公司に行って、開放したら皆さんにプラスになるよといって説明しました。

それから、いい服ができてもいいボタンがない。でも、日本には保税加工貿易という制度がある事をニチメンで勉強したので調べたところ、中国には保税加工貿易法がないのですね。私は一人、税関総署に乗り込んで、必要性を説明し、税関総署が「よっしゃ、分かった」とすぐ来て、来日視察し帰るとすぐに保税加工貿易法ができて、外貨を使わずに、部品を持ち込んで、来料加工を行い、そして、アパレルとか、靴だとか、いろいろな商品の付加価値を上げることができて、貿易が大きく伸びました。

中国計画経済が発展すると、ありきたりの商品が売れなくなった。ああ、計画経済も終わりだなと思ったときに、４人組が倒されて、「人の和」ができて、ああ、いよいよだなと思いました。中国が改革開放政策を採ったのですね。

ですから、鄧小平さんが来られたとき、私は日程の手配だったのですが、こういう性格だから、どうして鄧小平さん、大阪に着いてまだホテルにも入らないのに、真っ先に日銀に行きたいというのかなと、経済界の人々に聞きましたところ、「戸毛君、鄧小平さんという人は、なかなか先見の明があるよ」といわれて、「えっ」。

「日本が、戦後経済がうまくいったのは、通貨政策、金融政策がうまくいったからであり、高度成長、これも金融政策が成功したからなんだよ」ああ、そうですか。ということで、日銀と打ち合わせをして、そういう角度から日銀の果たした役割を説明してもらいました。

見学のときに、『風神』と『雷神』の文鎮があったのです。私が、「ちょっと一言、通訳だけど追加させてもらいます」といって、中国には「雷厲風行」、つまり、雷のように厳しく励まして、風のように速く行うということわざがありますねと追加しました。鄧小平さんは、「あ、君のいったとおり、私たちの改革開放は、雷のように厳しく励まして、風のように速くやらないと」とおっしゃいました。私が日銀を紹介したときの鄧小平さんとの思い出です。

○表彰された二人の日本人－松下幸之助・大平正芳

ということで、中国の改革開放がすごくうまくいって、去年40周年を迎えました。そして、12月16日に北京で大きな大会があったのです。100人の中国の人が表彰されて、10人の外国人が表彰されました。10人のうち、日本人が二人いるのです。誰でしょう。

一人が松下幸之助さん。鄧小平さんが来られて、よっしゃ、分かった、鄧小平さんの気持ちが分かるからといって、いろいろな中国の近代化にどんどん貢献したのですね。

もう一人は大平正芳さん。大平正芳さんは外務大臣として日中国交回復に大きな役割を果たしましたね。でも、改革開放にどういう貢献があったと思いますか。実は、首相になったときに、ちょうど鄧小平さんがアメリカに行くのに日本の上空を飛んで、ああ、大平さんに会いたいなと、電報を打ったのです。アメリカからの帰りに東京でちょっと飛行機待ちの時間があるので、首相官邸に内密で会いに行きたいけど、いいかといったら、オーケーが出て、それはなぜ私が知ったかというと、「小平（しょうへい）が大平（だいへい）に会う」という記事を見たのですね。鄧小平が小平で、大平さんが大平ですよね。あら、そんな親しい関係なのかと思って調べてみたら、その話が出ていました。

そのときに、大平さんが、鄧小平さんにどんな改革開放の計画、どんな青写真があるかと聞かれたのです。そうすると、鄧小平さんは一瞬詰まって、何もいえなくなった。彼が、ある講演会でそれを紹介している記事を見ました。鄧小平さんは、答えに詰まっちゃった。僕は戦争ではいろいろやったけれど、経済建設は経験がないから、一瞬詰まって答えられなかった。そこで大平さんに、彼は高度成長のときの財務大臣でしたから、いろいろな経験を聞いた。

例えば、中国の改革開放で“翻两番”といって、給料を上げる、倍増にする。あれは日本の所得倍増論の大平さんの話しがヒントなんですって。もう一つは、小康状態。これも大平さんとの話し合いがヒントになって、鄧小平さんが改革開放の政策に出したそうです。もう一つが、中国式の社会主義。これも、大平さんとの２、３時間の話のときに得たヒントとのことです。

そのときに鄧小平さんが、「大平さん、ぜひ中国に来てください。首相として来てください」といって、大平さんが12月に中国に行って講演をしました。もう一つ、無償援助とＯＤＡの借款をしたのですね。これが中国の近代化、改革開放に大きな役割を果たしました。まさに周総理が、経済の交流がとても大事だといったことが、このように証明されていますね。日本とのちょっとした民間貿易協定が、ＯＤＡの大借款にまで発展したのです。

この円借款がすごく大きな役割を果たしました。まず、期間が長い。30何年間。それから、低利子。そして、金額は大きくて、範囲が広い。ただプラントだけではなくて、人的な交流、例えば去年、大平班というグループが東京で会議を開きました。今ここに来られている新聞社の新聞でも大平班を紹介していました。愛称を込めて、中国の若者たちが、大平班という名前を付けたのです。つまり、日本語を教育するための分野にも借款を利用してもいい。範囲が広かったので、人材養成にもたくさんの資金を使わせてもらいました。

当時、中国は外貨がなかったから本当に助かったそうです。そういうことで、いまインターネットを見ても、中国の人が「大平さん、名前は絶対忘れないよ」と、みんな若者たちが書いています。あるいは大平さんとのＯＤＡの借款で開発した工場の若い人たちが投稿しています。それを見て、私は涙が出ました。こういう若者がたくさんいるんだな。日本では報道されない、報道されないといっているけれど、知る人はみんな知っています。ということで、去年、大平さんの受賞が中国では報道されました。しかし、日本のメディアは一切報道しませんでしたね。

○メディアの危険性と翻訳問題

私は、メディアはとても危険だと思います。中国の人は、簡単にメディアは信じないので、安心していますけれども、日本の人は、やはり信じてしまうのですね。そして、かつて戦争を煽るメディアに洗脳されて、2万人を虐殺したり、南京大虐殺もそうですよね。だから、みんなそういうふうにして、メディアにおだてられた。

例えば、最近の例を挙げましょう。メディアの果たす役割で、習近平さんが、一言いったことを日本のメディアは翻訳を間違えて報道しているのです。何と訳したかというと、「歴史問題は13億中国人民の感情問題だ」と。私はそれを見て、あっ、これはみんな、嫌中感というか反中感をおこすなと思って、近所の人、外大でも忘年会、新年会でみんな聞いたのです。中国語を分かる人は、「微妙だな」といって。でも、分からない人は、「ほら見ろ、中国人は歴史の問題というと、みんなかあっとなって感情的になって」と。いや、実はね、あの訳は間違いなんですよ。

一つは、私の中国人学生たちに、「感情って何と訳すか」と聞いたんです。誰一人も感情と訳しませんでした。「あなたに感情がある」と、日本ではいわないですね。中国では「あなたに感情がある」ということは、あなたに気があるという事。愛しているということです。私は中国に感情があるというと、中国に思い入れがあるという意味なのです。だから、中国人学生は「感情」というのを「心」、「気持ち」、「思い」と訳しました。そうしたら、あの嫌中感はおきなかったのではないでしょうか。

それから、問題を問題と訳すのは問題です。この事は何とかに関する、関わっているといっているから、あれを問題と訳してはいけない。なぜかというと、私が中国で勉強していた時、「いまからあなたの問題を話す」といわれ、私はびっくりした。「えっ、私、何か問題を起こしたの」といったら、みんながどっと笑って、いや、中国ではあなたの問題というのは、「あなたのこと」だと。あなたのことをいまから話しましょうということだと知りました。そこで、私は心に決めました。問題を問題と訳すのは問題だといって、いつも翻訳勉強のとき、日中両国は同じ漢字を使うから間違いやすいです。だから、絶対にひっかからないこと、先生がいったことを思い出して同じ漢字であったら、ちょっと気を付けや、調べや、思い出してねといって、通訳のときにその例を挙げます。

まさにそのとおりです。正しい訳は、歴史をどう認識するか、このことは、中国人民の心、気持ち、思いに関わっているんだよ。私はそのとき、学生みんなにいいました。歴史の問題を語った時、中国人の心は痛い。痛いでしょうね。先ず、心の痛み。その次は苦しみ。亡国奴になって、郷土から追いやられて、生活は苦しい。苦しみ。その次は、誰か身内や友達が殺されている悲しみ。そして、悔やみ。何故自分の国の政府はちゃんとしないのか。悔しい、悔やみ。その次が、憎しみか、恨みかな。最後に悩み。どうしたらいいのかな。で、私は、それが中国の人たちの気持ちだよ。並々ならぬ思いを知ってちょうだいねといって、冗談半分に、七つの「み」が重なったから、「七みなみならぬ思い」と紹介しました。

実は、その話を婦人団体にした際、2015年に南京城壁修復二十周年記念行事がありました。私たちの会長さんで、平山郁夫さんが絵を描いて、南京城壁でなんでこんなに壊れているかというと、日本軍が破壊したと聞いて、彼は帰ってきてから、友好協会に呼び掛けて、若者を動員して、みんな行って、城壁を修復しました。中国の人がびっくりして、いや、中国もやりますといって、それから中国も修復しましたけどね。

その婦人方が、20周年行事に行くということになりました。今、この会場にも何人か来ておられます。女性代表団、中に何人か男の方もおられましたけれども、中国の人の心を知りに行こうと南京に行きました。

南京に行くのだから、南京大虐殺の生き証人に会いたいなと、だから私は手紙を書いたのです。そうし

たら、友好協会の人は、もう80なんぼのばあさんだから駄目だよという手紙が返ってきました。しようがないなと思って行ったら、おばあちゃんが来ているんですよ。夏淑琴さん。私たちは喜んで、よく来てくれたというと、彼女も喜んで、皆さん、よく来てくれたといって、私たちは抱き合って、そして、彼女のつらい思い、南京の人たちが大虐殺でどんなつらい思いをしたかというのを、話すも涙、訳すのも涙、聞くのも涙。みんな夏淑琴さんとの心を伝える交流をしたことがあります。

翻訳というのはとても大事だと思います。そして、メディアもとても大事ですね。ということで、私は心を伝えることがとても大事だと心に決めて、ずっと、いまでも若い人たちを養成して、いい通訳になってね、字面だけで訳しては駄目よ。字面だけで訳したら、変な中国語、変な日本語になって反感を買うからといって、いつも、いまだに関西外大で、もういい年をしていますけれども、孔子学院といって、中国の文化、言語を伝えるためにつくった組織なんですね。中国語しかできない先生や、学生ボランティアの通訳をやっています。

研究室を与えられているので、中国の学生、日本の学生が入れ替わり、立ち替わりみんな翻訳の勉強に来ています。若い人たちからエネルギーをもらっているので、いまだにこうして元気に頑張っています。

○周恩来の指導と日本

ということで、今日は本当に私のつたない話で、皆さんに分かっていただけたかどうか分かりませんけれども、本当に周総理は中国人民を指導しただけではなく、私たち日本人民をも指導してくれて、こうして豊かな中国になって、そして、「富起来」というんですね。70年、豊かになって「富起来」。これからは「強起来」、強国になろう、夢を実現しようと中国の人々は頑張っています。中国はいままで弱かったから他民族に蹂躙された。だから、そういう意味で、日中両国人民が頑張っていい関係をつくっていきましょう。

そして、私は二度と、どんなことがあっても日本は戦争をしない、させない。今ちょっと危険ですよ。私は、安倍首相をちょっと心配していますけれども、まあ、心配要らんよといわれましたけどね。でも、戦争をしない、させないために、皆さん、老骨にむちを打って頑張りましょう。私も頑張ります。ありがとうございました。

（大拍手　了）

3．記念式典・祝賀会（2019 年 5 月 20 日）

1）挨拶・祝辞

● 司会　間もなく祝賀会が始まりますので、そろそろお席へお願い致します。笛の演奏から聞いていただきます。岡野弘幹さんとおっしゃいまして、嵐山でも記念詩碑の前で素晴らしい笛の演奏をご披露いただきました。ネイティブフルート、自然のフルートとでもいいましょうか。ご自分でフルートをおつくりにもなります。では、お願い致します。

（演奏：岡野弘幹氏）

● 司会　尺八のようで尺八ともちょっと違うようです。ネイティブフルート。岡野弘幹さんでございました。また後ほど、演奏をしていただきます。丸いテーブルですので、どうぞお楽に向きを変えていただいて結構です。乾杯までは。式典の間はごゆっくりとご覧いただければありがたいと思います。

ご案内のように、周恩来元首相が「雨中嵐山」の詩をお書きになって 100 年、詩碑が嵐山にできて 40 年ということで、今日は記念の大きな行事が三つ行われています。

午後 1 時から嵐山で献花式。大勢の皆さんにご参加いただきました。そして、先ほど午後 4 時から戸毛敏美先生の講演を聞いていただきました。

三つ目は、ただいまからの記念の祝賀会。まずは、記念式典であります。このような会をする目的はどこにあるのか。趣意書にきちんと書かれてあります。お読み致しますので、もう一度お聞きください。

『中国の初代首相の周恩来氏は、建国の母、中国人民の父とも呼ばれる。青年時代には日本で学ばれ、半年余りを京都ですごされた。当時の京都大学で新しい思想に触れ、その影響を大きく受けたといわれている。1919年4月5日、嵐山を訪れ、「雨中嵐山」の詩を新体詩で詠まれた。その後、周恩来氏は、毛沢東氏らとともに混迷と動乱の時代に終止符を打ち、1949年、中国人民共和国を建国。1972年には日中国交正常化を実現させ、両国の歴史に大きな足跡を残した。

本年2019年4月5日は、周恩来元首相が「雨中嵐山」の詩を詠まれてから100年、この新体詩は1979年、周恩来総理詩碑として地元京都の多くの人たちによってゆかりの深い嵐山に建立され、40周年を迎える。この機会に周恩来元首相の偉大な功績を称えるとともに、日中の友好親善と一層の交流促進を図るため、ご賛同いただく多くの皆様方とともに記念の行事を開催することとした。皆様方にはご趣旨に賛同いただき、ご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます』とあります。

委員長・尾池和夫、主催団体会長・松田和典、主催団体代表理事・佐藤れいと3名の連名となっております。

では、記念祝賀会のまずは記念式典を始めさせていただきます。主催者を代表して日中国際文化交流協会会長・松田和典よりごあいさつを申し上げます。

＜主催者あいさつ＞（日中国際文化交流協会会長　松田和典氏）

ただいまご紹介いただきました松田でございます。

私は、大阪に本部をおく一般社団法人日中国際文化交流協会の会長を務めております。本日は大変お忙しいところ、多数ご列席賜りまして誠にありがとうございます。

先ず主催者を代表して一言ご挨拶を申し上げます。この五月一日、平成天皇がご退位され、新天皇が即位され、令和の時代を迎えることができました。心よりお祝い申し上げる次第です。

このめでたい年の記念事業として中国の周恩来元首相の雨中嵐山創詩100周年のお祝いの席を設けさせていただくことは無上の光栄に存じます。

この祝賀記念事業を私どもがとり行うきっかけは、昨年秋深く、京都大学での集まりの席上、門川京都市長からお声がけいただいたことからの始まりです。私どもだけでは難しいことから、国際京都学協会の方々、日本国際貿易促進協会京都総局の中重節子専務理事、京都府日中友好協会の田中彰寿会長、町野覚理事長をはじめ、多くの皆様方のお力添えを得て、取り組ませていただいた次第です。

私どもの理解のなさや、時間が足りなかったこともあり、多くの関係者の皆様方から多大なご支援ご協力を賜りました。心より厚く感謝申し上げる次第です。

今日はお昼より嵐山の「雨中嵐山」詩碑の前で門川市長、中国総領事館の李春領事他多くの方々と共に献花して参りました。

引き続き、大阪日中友好協会の戸毛敏美先生には周恩来元首相の貴重なお話を賜りました。日本と中国の今日の友好親善の礎を築いていただきました周恩来元首相の功績に敬意を表しますとともに、これからの100年に責任をもった行動が求められていると深く感じているところであります。今日ここにお集まりいただきました日本、中国の関係者の方々をはじめ、多くの皆様方に対しまして心より厚く感謝申し上げる次第であります。

日中両国の皆様方に対しまして100周年のお祝いを申し上げますと共に、これからの末永い友好親善を祈念し、声高らかに祝したいと存じます。

● 司会　では委員長のごあいさつをいただきます。委員長・尾池和夫。京都造形芸術大学学長であり、京都大学総長をもお務めになられました。よろしくお願い致します。

＜委員長あいさつ＞（京都造形芸術大学学長　尾池和夫氏）

皆さん、こんにちは。今日は、まあ雨は降りだすわ、風は吹くわというので、やっぱり「雨中嵐山」かと思いました。よくこれだけたくさんの方が集まってくださったと思って感謝しております。

私は先ほど終わりました戸毛先生の講演の話を本当に懐かしいと思って伺いました。私は初めて中国に行ったのは 1974 年なんですが、まだ直行便が飛んでないころです。そのときに私はまだ三十何歳のときなんですが、国際貿易促進協会の関西本部が、中国科学院に行って、日本の学問の状況をちゃんと説明してこいみたいなことで、それで中国に行ったんです。木村一三さんという方がずいぶん強引に、そのときも「行ってこい」といっておられました。それからもう何十回と中国の各地に伺っておりますが、とにかく初めて行ったとき批林批孔運動の真っ最中で、どこへ行っても、とにかくいろんなことが出てくるんですが、物事を何かを聞くと必ず、「周恩来総理の指導の下に」というのが枕詞に入って来ました。

そしてその次に、「専群結合、土洋結合」、西洋にも学ぶし、東洋の思想も大事だと、大衆に学んで専門家と一緒にやるんだというようなことをずっと聞かされて、それがいつも耳にこびりついておりました。

そして最後は、日中の関係は一衣帯水の関係であるというところで終わるという、一連の演説がずっと耳に残っているんですけども、そういうことで長いお付き合いが始まりました。

そして中国の方はいろんな分野の方でお招きすると、その方たちが京都へ来ると必ず嵐山に行かれる。仕事をほっといてでも嵐山に行かれる。なんでだろうと思ったのですが、「雨中嵐山の碑」だったんです。周恩来総理が学んだ場所であるということで、共産党という言葉がそこから生まれたとか、「とにかく京都大学で勉強したい」といって来られた方がそういう歴史を持っているわけです。ですから、これは必ず嵐山にお連れしてご案内をしなきゃいけないということで、ずっとその繰り返しが何十回と行われていたわけです。

そういうこともありますので、委員長も致し方なかろうと思ってお引き受けしました。こういう関係のパーティーですから、それを今日はゆっくり楽しんでいただきまして、周恩来総理の思い出、その他をまたゆっくり話していただければというふうに思います。

まあ、これから日本と中国の間、一衣帯水の関係というのは、これは変わりようがありませんので、ずっと続いていくわけです。それを大事にしながら、私もまた中国のいろんなところへお訪ねして、周恩来総理の話ももっと繰り返していきたいなというふうに思っております。今日は本当にいい機会ができて、たくさんの方が集まってくださって本当によかったと、うれしく思っているわけであります。

今日は本当にどうもありがとうございました。委員会を代表してお礼を申し上げて、ごあいさつに致します。本当にどうもありがとうございました。

● 司会　尾池和夫委員長、ありがとうございました。

では、ご祝辞を賜ってまいります。外務省関西担当特命全権大使・山本条太様、よろしくお願い致します。

＜祝　辞＞（外務省関西担当特命全権大使　山本条太氏）

この部屋にいらっしゃる、たくさんの中国の皆さん、中国のことが大好きな京都・関西の皆さん、こんにちは。関西大使としまして先月着任を致しました山本と申します。

今日はひっそりお邪魔をするだけのはずだったのですけれども、いきなりこういう高いところからあいさつ申し上げるということで誠に光栄でございます。松田会長、そして尾池委員長はじめ委員会の皆様、心から感謝を申し上げます。また、お祝いを申し上げます。

「雨中嵐山」100 周年。100 周年は大変に長い時間でございます。私は先月までフィンランドという国におりました。フィンランドは一昨年で独立 100 周年。そこでは、ヨーロッパに限らずいろいろな世界のことを考えるよいきっかけになりました。

フィンランドは東アジアに一番近いヨーロッパの国でございますので、日本のことをよく見ております。中国のこともよく見ております。フィンエアーという航空会社がございますけど、日本に毎週毎週 41 便飛ばしております。関空にも毎週 10 便。中国には毎週一便だけ多い、42 便飛ばしております。

フィンランドから見ておりますと、日本と中国との関係の大切さということも実感することができました。フィンランドでもう一つ学びましたのは、人のつながりの大切さです。人のつながりがすべてのことをつくりだす。国と国との関係はそのときそのときの色合いもさまざまでございますが、どういう色合いであれやっぱり人のつながりに最後はつながっていく。またそれが新しい関係をつくりだしていくと考えます。

これは皆様の様子を見ておりますと、まさにそのとおりだというような気が致します。Ｇ２０という会議がございますけども、そういう場に習近平主席がお越しになられるということを望みながら、私は、今日のこの場の皆さんの情景というものをしっかりと胸に刻んでお迎えをしてまいりたいと思っております。本日はおめでとうございました。ありがとうございました。

● 司会　外務省関西担当特命全権大使・山本条太様、ありがとうございました。内閣府官房審議官・間宮淑夫様、よろしくお願い致します。

＜祝　辞＞（内閣府官房審議官　間宮淑夫氏）

ありがとうございます。つい先ほど霞が関の東京から着物でやってまいりました内閣官房内閣審議官の間宮でございます。

現在、文化を担当しておりまして、いろんなご縁があって松田会長と親しくさせていただいております。私、実は松田会長が本事業について、大変ご苦労されながらその実現にこぎつけられた。そこに尾池委員長の力があって、こういうかたちで盛大に行われるのだと。最初の方から拝見させていただき、私としては大変うれしいものもございますし、あらためて事務局の皆さんも大変お

疲れさまでございました。

私、この事業を３点非常に重要であると考えています。

１点目なんですけれども、よく中国とわが国の関係、政冷経熱なんていいます。でも最近は、なんか経済の方がちょっと少しきな臭い感じがあります。米国ですね。ただそういうときこそ、こういう文化の交流が大事です。そういった意味では、まさしくこの日中の交流、そして文化の交流という点で、この記念事業は非常に大きな意義があると考えております。これが１点目です。

それから２点目なんですけれども、これが京都で行うということですね。もしかしたらこの中の何名の方々は、私の地方創生の講演をお聞きになったかもしれません。いまの日本は、東京・千葉・埼玉・神奈川、１都３県に人口や経済の中心が集中してしまっている。そういうときにこそ、１都３県以外でどのような事業をやっていくかというのが大事になっている。そういったことの一環として、それを具体化したのがこの事業であると。つまり、地方創生にとっても意味の大きい事業であるというのが２点目です。

それから３点目。まあ私も文化の仕事をしていまして、文化庁も移っていきますけれども、京都は文化都市だけじゃないんですね。教育都市でもあるわけです。私も講演の資料を調べていて、京都はほかの県に比べていわゆる教育関係の事業の比率が非常に高い。これが京都府の、京都市の特徴です。そういった意味では、まさにこの周恩来元総理が京都の大学に来られた。それがいま 100 年を経てこういうかたちになっている。まさしく京都の文化・教育都市としての素晴らしさを表現している。３点目にはそういう点で非常に意義が大きいというふうに考えております。

それからこういった事業、この碑とか記念事業というのは、あくまでも一つの節目なんですね。私は個人的には、この記念事業をきっかけに、先ほど会長がおっしゃりました日中交流あるいは経済も含めた、さまざまな事業が発展していくことを期待しております。

最後になりますけれども、私もいろんなパーティーであいさつをさせられますが、日本のパーティーでは知っている人とばっかり話すことが多いんです。社長さんは社長さん同士。ですが､欧米ですとこういったパーティーというのは、知らない人と話すんですね。

よくハリウッドの映画で郵便配達のアルバイトの青年が社長に直訴する機会を得て、それからビッグになるというシンデレラストーリーがよくあります。まさにこの場というのは皆さん、私も含めてわれわれに与えられた非常に貴重な機会ですので、今日は知らない方、英語、中国語話せない方、外国の方とも話してみようとしてください。それによって、ますますこの日中両国の交流、そして京都の発展、ひいては日本の発展につながるものと大変期待しております。ということで、私のお祝いの言葉とさせていただきます。本当にお疲れさまでした。本日はおめでとうございます。

● 司会　内閣府官房審議官の間宮淑夫様、ありがとうございました。

京都市副市長・鈴木章一郎様、よろしくお願い致します。

＜祝　辞＞（京都市副市長　鈴木章一郎氏）

京都市の副市長の鈴木でございます。皆さん、こんばんは。今日はこの周恩来元首相の創詩 100 年の記念式典に列席させていただきますことを非常に光栄に思っております。松田会長、尾池委員長はじめ、皆様方の多大なご尽力に敬意を表するものでございます。

周恩来元首相が嵐山の非常に美しい自然を情感たっぷりにお詠

みになったわけでございますが、この素晴らしい自然環境、またひいては地球環境というのを、どうやって次の100年も残していくかということは非常に大きなテーマだと考えております。

京都市におきましては京都国際会館という素晴らしい施設があり、ここで採択された京都議定書はあまりに有名でございますが、その後、パリ協定に移りまして、さらに，先週までＩＰＣＣ、気候変動に関する政府間パネルというのが開かれてございました。そこでは実際に温室効果ガスを減らしていくために基準を決めようではないか、またその決めた基準を京都ガイドラインと呼ぼうということで、京都議定書に次ぐ京都の名前を冠したガイドラインができたということで盛り上がっているところでございます。

また、もう1点。これから日中の関係、非常に大事でございますけども、こういう中で都市間交流というのが非常に大切だと考えております。われわれ京都市におきましても、西安市と友好都市、それから青島市とパートナーシティということで友好を結ばせていただいてございますけれども、最近でも，先週には青島市からは副市長が、また本日でございますが友好都市提携４５周年を記念して西安市人民代表大会常務委員会主任がお越しになりまして、それぞれ京都とお互いの都市の観光、あるいは文化のよさ、そういうものを交流を通じてより高め合っていこうということでお話をさせていただいたところでございます。

京都というのは長安の都を模して、それを独自の文化に発展させてきた都であるというふうにいわれています。文化庁の移転ということも力に京都からより文化を発信し、また同時に東アジアの平和に貢献することができればと考えております。

あらためて，周恩来元首相の創詩100周年を記念する本日のこの会の開催をお祝い申し上げますとともに、日中両国の友好の発展とご列席の皆さんのご健勝を祈念申し上げまして、祝辞とさせていただきます。本日はおめでとうございます。

● 司会　京都市副市長・鈴木章一郎様、ありがとうございました。日本華僑華人聯合総会会長代理・楊正武様と、引き続いて京都府国際課長の山田圭則様にお願い申し上げます。

＜祝　辞＞（日本華僑華人聯合総会会長代理　楊正武氏）

東京の会長よりご祝辞をいただいていますので、代読させていただきます。

『このたびの、周恩来元首相記念事業「創詩100周年・記念詩碑建立40周年献花式･記念講演･祝賀会」の開催を心から感謝し、お喜び申し上げます。

本年、中華人民共和国建国70周年の節目に歴史を思い起こし、日中国交正常化、中日友好に尽力された周恩来元首相においての記念すべき詩碑を顧みて、献花式・記念講演・祝賀会を催すこの企画は大変意義の深いものであります。

この企画を計画され、実行された日本の友人の皆様に感謝するとともに、中日の民間交流をなおいっそう発展するようにともに頑張りたいと思います。

近年10年間、中日間の外交民間交流は冷え込んでおり、交流の空気がもやもやして光の見えない状態が続いてまいりましたが、昨年からの李克強首相、安倍晋三首相の相互訪問が実現し、もやもやが少しずつ晴れて明るい中日交流の道が見えてまいりました。まさに周元首相の「雨中嵐山」の碑を物語るようであります。

そして、周首相はサンフランシスコ講和条約での外相時の発言は脈々として現実を語っております。敵視政策に双方の何の利益ももたらさないことを諭しております。また、平和五原則とうたっていましたが、その中での内政不干渉の教えは私たち海外華僑の基本的立場であります。

そして、この碑文を希望に廖承志主任は在日華僑の父とも慕われ、在日華僑の正当な権益を守ってきました。お二人とも私たち在日華僑の恩人でございます。周元首相は明治大学、廖主任は早稲田大学に在学し、日本の友人も多く、こうして記念式を催していただくことは私たち在日華僑にとって大変うれしいことで、心から中日友好交流促進への連帯を願ってやみません。参加されております皆様に、中日友好交流をさらに前進させられることを祈念して祝辞に代えさせていただきます。本日はどうもありがとうございました。』

＜祝　辞＞（京都府国際課長　山田圭則氏）

皆様こんばんは。ただいまご紹介にあずかりました、京都府国際課長の山田でございます。

本日は周恩来元首相「雨中嵐山」創詩 100 周年の記念祝賀会が、本当に多くの皆様方、ご来賓の方々をお迎えされ、盛大に開催されましたことを、心からお祝い申し上げます。また、本事業の実施に向けましては、日中国際文化交流協会松田会長、尾池和夫委員長をはじめ委員会の皆様方のご尽力の賜と心から敬意を表する次第でございます。

さて、周恩来首相が青年時代に半年余りを京都でお過ごしになられ、嵐山の美しい印象を詠まれました「雨中嵐山」。1978 年の日中平和友好条約の調印を記念し、子々孫々にわたる友好の気持ちを表すため建立されました詩碑には、昨今も入洛されます中国の要人の方々、観光で京都にいらっしゃる皆様が多く訪れておられることからも、深く敬愛されていることがよく分かると存じます。

日本と中国との関係において申しますと、1972 年の９月に、当時の田中角栄総理大臣と周恩来首相が北京で「日中共同声明」に調印され、日中国交正常化を果たし、それ以降、官公庁による親善交流に始まり、中国の発展に伴う日本企業の進出でしたり、観光、留学、そして文化、芸術など、その交流の裾野は大きく広がって参りました。

京都府もまた 1983 年８月に陝西省と友好提携を結びまして、文化・教育・経済等の幅広い分野で交流を進めているところでございます。今後ともこの日中の友好をさらに進めるべく尽力してまいりたいと考えておりますので引き続き皆様のご協力を賜れれば幸いです。

結びにあたりまして、本日の記念事業を契機と致しまして、日中の友好がさらに活発となりますこと、また本日ご列席の皆様方のご健勝、ご多幸をご祈念申し上げまして、私のあいさつとさせていただきます。本日はおめでとうございます。

● 司会　日本華僑華人聯合総会会長代理・楊正武様、京都府国際課長・山田圭則様ありがとうございました。この後はご来賓のご紹介をさせていただきます。その場でご起立いただければ、ありがたいです。

まず、中国側からまいります。

京都華僑総会会長・楊正武様。いまごあいさつをいただきました。ありがとうございました。

・神戸華僑総会会長・陳明徳様。

・全日本華僑華人連合会名誉会長・周偉生様。

・中秋明月祭大阪実行委員長・王天佐様。

・関西中華總商会会長・馬雲国様。

・法政大学教授・王敏様。

・中国留日同学会会長・詹然焉様。

・関西中華總商会副会長・河原玲青様。

・㈱廣記商行会長・鮑悦初様。

・大阪歯科大学特任教授・方一如様。

・一般社団法人日中国際文化交流協会代表理事・佐藤れい様。

日本側は先ほどと重なりますが、外務省特命全権大使・山本条太様。

・京都市副市長・鈴木章一郎様。

・内閣府官房審議官・間宮淑夫様。

・京都府国際課長・山田圭則様。

・委員長・尾池和夫様。

・主催委員、日中国際文化交流協会会長・松田和典会長はこちらにおります。

・日本書芸院名誉顧問で書家の杭迫柏樹様。

・国立京都国際会館館長・内田俊一様。

この後は議員の方々。現職の方をご紹介させていただきます。こちらのテーブルです。

・衆議院議員・前原誠司様。

・衆議院議員・繁本護様。

・参議院議員・福山哲郎様。

・衆議院議員・竹内譲様の秘書、田原功一様。

次は府議会議員にまいります。

・京都府議会議員・山口勝様。

・京都府議会議員・酒井常雄様。

・京都府議会議員・原田完様。

・京都府議会議員・田中健志様。

京都市会議員の皆様をご紹介致します。

・京都市会副議長の青野仁志様。

・京都市会前議長・寺田一博様。

・京都市会議員・下村あきら様。

・京都市会議員・くらた共子様。

・京都市会議員・とがし豊様。

・京都市会議員・大道義知様。

・京都市会議員・吉田孝雄様。

・京都市会議員・かわしま優子様。

・京都市会議員・中野洋一様。

・京都市会議員・松田けい子様。

国会・府議会・市会の現職の方々をご紹介させていただきました。

2）開催風景

周恩来元総理への大切な想い—。

Chinese Messages

美国女神艺术博物馆馆长
罗丹国际艺术家基金会副秘书长
趙　瓊

无限思念寄何处

周恩来总理作为一代伟人，他几乎没有留下什么有形的东西，但是他的身影却时时在我们身边，至今，人民怀念他。他是中国有史以来的第一个平民宰相，也是世界上最平民化的总理。他爱心博大，将无私和儒家传统的仁义忠信融合成一种新的美德。少年奋发为中华之崛起而读书，披肝沥胆为民族之复兴而奔走,鞠躬尽瘁为人民之福祉而操劳,他的人格魅力超越了时空。

无限思念寄何处？　魂兮何在？　欲祭无碑。

30年前，我在日本读书工作的时候曾去过京都的岚山，寻找到了那块立在异国的天然鞍马石纪念碑。碑的正面镌刻着廖承志先生书写的周恩来(1917年9月东渡日本留学时)《雨中岚山》诗文。1979年4月16日诗碑建成，邓颖超夫人曾亲赴日本为诗碑落成揭幕。

我作为一名职业艺术家，20年前曾为纪念［中日和平．友谊长存］设计创作了两位中日关系的开拓者周恩来与池田大作先生握手的大型浮雕，现收藏于日本东京富士美术馆。近年我又翻阅参考了一些周恩来总理的早年历史图片史料，为他留学日本创作了一件不朽的青铜雕像，希望伴随诗碑寄托人们对他的无限思念。

简介：艾伦赵琼．希克坦兹（Ph.D Qiongzhao Ellen.Schicktanz）著名美籍华裔公共艺术家，文学美术史博士。2018年美国国家移民大奖“爱丽丝岛荣誉勋章”获得者。她的油画和雕塑艺术作品曾多次参加国际艺术大展，获奖。作品被日本富士美术馆，美国革命历史博物馆（美国独立战争博物馆），美国国家宪法中心等多家机构收藏或作为城市艺术景观。

（一社）日中国際文化交流協会
代表理事　佐藤れい

100 年前有一位立志报国的少年在京都“岚山”怀着对祖国的心愿留下了一首百年不朽之作“雨中岚山”。

72 年、在战火纷飞 8 年仇恨入骨的年代、是他提出“中日友好建交”从此彻底扭转了两国之间的仇恨关系、13 亿人群中他是中日友好建交中独一无二的领袖、那个年代不知他付出了多少艰辛的代价！我们是无法想象的。

一个人只为自己活的叫凡人，一个为国家为民族不顾一切挺身而出而活的人叫伟人、如果我们作为一个凡人都不懂得怎样尊重、敬仰拯救我们的伟人的话、这是我们晚辈的耻辱！当今我们中华民族受到世界的瞩目，“一带一路”让我们发挥更多华人、国人和友好国际友人的密切关系、让我们以真诚的心和行动回报、缅怀为我们无私奉献一生、为人民鞠躬尽瘁任劳任怨一辈子、无儿无女无存款无墓碑的这位伟大光荣的伟人“周恩来总理”

《怀念您是我们中日两国儿女必行的共同心愿》

私の伯父 王国藩が建国後の始めての合作社を作ったことで、全国労働模範になり、中央委員に選ばれていた。その頃、周恩来総理が各国の友人を合作社へ案内した。忘がたい共和国の歴史の1頁であり、周恩来の人民外交思想の実践先端である。それを受けて嵐山の周恩来という研究調査の成果を、嵐山の周恩来という本にまとめ、周恩来創詩百周年記念式典に参加した。主催側に京都市長及び関西の市民に感謝申します。

法政大学 教授
王　敏

神戸華僑華人総商会 会長
鮑 悦初

周恩来总理年轻时，为寻求救国道理曾来日本，在一次游岚山时，他吟出了《雨中岚山》。在这首诗里，他借景生情，抒发了振兴中华的伟大抱负。上个世纪 70 年代末，日本的有识之士和部分日中友好团体发起筹建周恩来诗碑的倡议，以纪念他为日中友好事业呕心沥血的伟绩。我鮑悦初作为落地生根的第三代日本华侨和中华总商会会长更要继承周总理的伟大抱负，继续为中日友好，振兴中华做出贡献。

大阪歯科大学 特任教授
方 一如

周恩来总理的政治智慧 人格魅力 外交风范 丰功伟绩 深深地感動了我们這一代中华儿女。在他身上真正实現了人性 人民性的完美統一。实践了為国家為人民鞠躬尽瘁。他的一生心底无私 严以律己 廉洁奉公守法 將永遠活在中国人民心中。周恩来总理也是近代中日友好的开创者和实践者。我們將子继父业 一如既往开展堅持中日民間友好交流 我們中日两国人民將从实際行動深切缅怀 永远紀念最敬愛

1965年周总理和群众共同高唱《歌唱祖国》，指挥者为王莘。

缅怀一代伟人周恩来总理！当年周总理与我们天津歌舞剧院的演员们一起高唱老院长王莘的作品《歌唱祖国》，那张照片依旧印在我的脑海里，将永远铭记。敬爱的周恩来总理永远活在我们的心中！

神户中华同文学校
校长 张述 洲

関西中華総商会的执行 会长
何 玲青

在纪念敬爱的周恩来总理逝世 44 周年之际，我带着无限敬仰的说，周总理您的灵魂和精神一直在我们心中，一直在鼓励我们克服困难胜利前进。我在读高中的时候，就为您的为我中华屈起而读书的雄伟壮志凌云的胸怀而感动。我也很清楚的记得你在 1917 年去日本留学前夕写下了无题诗，表达了您的雄伟大志，拯救中华。“大江歌罢掉头东，邃密群科济世穷。面壁十年图破壁，难酬蹈海亦英雄。”您一生大公无私鞠躬尽瘁，为人民谋幸福，可以说是“蜡烛成灰泪始干”贡献了一切。我们永远记住您，周恩来总理

思念没有声音，却能充满乾坤。风吹走浮尘，却吹不灭心的印痕。周恩来，您的名字，一年又一年。一次又一次，让我们缅怀你，纪念你，想起您。您的的这种崇高的精神，伟大的风范，您那种一生为国为民鞠躬尽瘁的那种精神，是值得我们每一位中华儿女铭记的和学习的。我们永远的怀念您！

全日本华侨华人联合会
名誉会长 颜 安

大阪中秋明月祭 实行委員長
王 天佐

懷 念 周 总 理

永垂青史 魂揚四海
遠古今朝 砥柱中華
懷智正豪 洞察世界
念民思国 鞠躬尽瘁
周公夙愿 中華之夢
总理精神 民族之魂
理壮赤膽 普照春秋

《人民日報海外版》
編集長　蒋　丰

想起周恩来总理的几件小事

转眼之间，敬爱的周恩来总理已经离开我们 44 年了。时至今日，我都还清晰地记得 1976 年 1 月 8 日，周恩来总理去世，整个北京城哀乐低回，讣告联播，人们自发地配戴起了只有家中亲人去世才配戴的黑色腕章，自发地在胸前插上一朵小小的白花，自发地到所在的单位扎捆大小花圈，自发地含泪列队把花圈送往位于天安门广场的人民英雄纪念碑。

当时，我正在上中学。因为身患肝炎，正在我的太外婆家疗养。因为太外婆家在北京的东单，距离北京医院很近，我也就因此能够站在北京医院的门口，与成千上万的北京市民一起，“百里长街送总理”。

记得我回家后把这番情景转述给太外婆的时候，老人家哭了。她还给我讲了当年自己在天津与邓颖超一起读书的故事。回到我的家中，印象最深刻的是我父亲的那句话语——“如果可以的话，我真的想替周恩来总理去死。”

我个人及家庭与周恩来总理的缘分，可以有两件小事可以讲。其一是 1972 年中日邦交正常化以后，周恩来总理指示北京市政府，要安排几所学校的学生从初一开始就学习日语，为祖国培养日语人才、培养中日友好的人才。结果是，当时北京市月坛中学、第 36 中学、北海中学被指定为学习日语的中学。而我恰恰是在这以后进入北海中学的，也因此有幸从初中开始就学习日语。今天，我能够在日本从事传媒工作，并且有所成就，怎么能够忘记周恩来总理？！

其二是 1974 年，伴随着形势的变化，周恩来总理讲了一句，“毛子水、杨联陞我都知道，可以邀请他们在方便的时候回来看看”。正因为这样，我的外公、美国哈佛大学汉学教授杨联陞才得以在离国 30 多年后重新踏上故土家园，和家人重新团聚。

1988 年 8 月我到日本自费留学。至今在日本已经学习、生活、工作的 32 个年头。这个期间，我不知道多少次听到日本友人深情回忆周恩来总理。纸短事多，只能够择一件小事叙述。已故中日协会理事长白西绅一郎先生早年投身中日友好事业，曾在中日邦交正常化尚未实现的岁月，与日本政经界一些大佬前往北京。他说，那个时候，繁忙的周恩来总理，经常是深夜一点、两点钟把我们叫到中南海西花厅。到了以后，周恩来总理总是说，“对不起，这么晚叫你们来。你们先吃点夜宵吧。”然后，就让厨师给他们每人做一个清蒸狮子头。

晚年的白西绅一郎非常想再吃一口在周恩来总理那里吃到的狮子头。我曾经给他介绍、也陪伴他去过不少东京的中餐馆，每次吃了以后，他都会摇头，说，“这和周恩来总理那里的狮子头的味道完全不一样。”最后，我明白了，白西绅一郎先生“吃”的是岁月，“品”的是与周恩来总理的挚爱情感。

近年来，我还经常陪国内来的客人在东京巡游周恩来当年读书的地方，那块小小的刻有“周恩来曾经在这里读书”文字的纪念碑，不知在多少人心中激起怀念周恩来总理的狂澜。我还多次带朋友到周恩来总理当年读书时最喜欢去的“汉阳楼”，从那里得知青年周恩来负笈东瀛，味蕾伴乡愁，时常不短会到这里来吃狮子头。走这样的“红色之旅”，让我这个走过留学生活的人，感觉与周恩来总理的距离更近了一步。

2018 年 3 月 1 日，中国国家主席习近平在“纪念周恩来同志诞辰 120 周年座谈会”上动情地讲道：“周恩来，这是一个光荣的名字、不朽的名字。每当我们提起这个名字就感到很温暖、很自豪。”这番话，代表了我们至今怀念周恩来总理的所有人的情感。

周总理，我们想念您，怀念您。

周総理構筑的中日友好関係万世相続

东京话剧艺术协会会长
凌 庆成

四十四年前，五洲同泣，群山哀鸣。在肃穆的长安街上，敬爱的周总理走完了他完美的一生。十里长街百万群众站在凛冽的西北风中迎候着。傍晚时分，周总理的灵车缓缓驶来，人们忍着裂心的悲痛，目光随着车身移动。而驾驶灵车的司机是我的好友一全国民政劳动模范李生明。每当回忆起当时的情景，他都会说，自己手里的方向盘牵动着千万人的心。时光荏苒，转眼半个世纪过去了。回来吧，人民的好总理，我们永远热爱您。

日本障害者芸術団芸術総監督
田山 華栄

中国留日同学会
会長 江 岩

周恩来，一个已经成为不朽象征的名字，他的故事和精神经过世世代代地传承，越发感动我们的心灵，成为照耀我们不断前行征程的指路明灯，我们永远怀念您。

人民的恩来为人民，我们永远怀念您，岁月静好，英魂长存，中华民族的表帅。

德宝智能：股东
夏 御岚

中国建築装飾協会 副主任委員
李 中卓

为《日中国际文化交流协会》所作《周恩来总理纪念活动》纪念册献言

深夜低吟不能眠，
切闻佐藤邀感言，
缅怀周公千万语，
怀思时复润眼前。
周而复始夜难眠，
恩爱相随颖超伴，
来往东海友桥架，
总育桃李春满园。
理政爱民思周全，
为华崛起行路艰，
中央引领开新路，
日中友好谱新篇。
友好睦邻与伙伴，
好雨知时绿波澜，
文游臺榭剪荆棘，
化为岚山碑石瞻。
交流文化经济源，
流芳百世友谊传，
助力大坂世博会，
力拔山兮周公勉。

广島県華商会長
孫 明

周总理是中日友好事业的开拓者和奠基人。作为在日华人，我们缅怀周总理的最好方式就是要把中日友好事业继续推进，无论是在民间还是政府层面。我相信，中日关系的未来一定会更加光明，中日友好之花一定会更加娇艳。

周总理人民的好总理始终艰苦朴素，只求奉献，不思回报，周总理教导我们"对自己应该自勉自励，应该严一点，对人家应该宽一点，"，严以律己，宽以待人，我们親爱的周总理为了中国人民献出了畢生精力，"鞠躬尽瘁，死而后已。"。人民的总理爱人民，人民总理人民爱，敬爱的周总理永远活在我们心中。

大阪華僑総会 理事
卞 正元

［写真・文責任者：佐藤れい］

3章　後援・協賛

1．ご後援いただいた団体

外務省・中国駐大阪総領事館・京都府・京都市・日本国際貿易促進協会京都総局・京都商工会議所・朝日新聞社京都総局・読売新聞社京都総局・毎日新聞社京都支局・京都新聞社・京都放送 (KBS)・毎日放送 (MBS)・関西テレビ放送 (KTV)

2．ご協賛いただいた個人・企業・団体

（個人）※五十音順・敬称略

伊藤之雄
上杉孝實
江里康慧
岡田　勇
景山義也
杭迫柏樹
佐藤れい
四宮陽一
田中彰寿
富田謙三
中村京古
西村明美
古川　修
前原誠司
松井節子
松田和典
南　孝義
森田嘉一
山仲修矢
吉田知代
和田行弘
井上　浩
内田昌一
尾池和夫
小栗栖元徳
川添堯彬
児玉実英
品川弥太男
新谷由貴代
土屋美子
豊田知八
中村道一
任　書楷
方　一如
町野　覚
松尾徳彦
三島　明
森田　守
山田和子
楊　正武
冷泉貴実子

（企業）※五十音順

株式会社　片岡製作所

株式会社　京都華聯旅行社

株式会社　廣記商行

株式会社　サンカラーシッピング

株式会社　三煌産業

株式会社　長　栄

株式会社　日進製作所

株式会社　も　り

京都青果合同株式会社

京都創価学会

京都中央信用金庫

ナルックス株式会社

日中国際フェリー株式会社

楓林閣

福田金属箔粉工業株式会社

藪木総合会計

ローム株式会社

ワタキューセイモア株式会社

（団体）　大阪歯科大学

大阪歯科大学 中国留学生学友会

4章　資料

1．寄稿

周恩来の対日「民間外交」の原点
―百年後の「雨中嵐山」を読む

＜　法政大学教授　王　敏　＞

寄 稿 目 次

はじめに……41
1．「雨中嵐山」のルート……41
2．周恩来を導いた日本の大禹……44
1. 亀山公園の角倉了以銅像
2. 大悲閣千光寺と隠元
3. 高泉性激の詩碑
3．大禹と角倉了以に注目する理由……48
1. 治水の家の歴史
2. 祖先祭祀習俗
3. 清明節と「雨」
4. 中学の作文に書き留めた大禹
4．「一点の光明」とは……52
5．周恩来と大禹精神の緊密な結びつき……53
1. 対日民間外交のヒント
2. 対日民間外交の実践
3. 民間外交の課題
6．なぜ、文化交流に期待するか……58
1. 中学時代の日本観
2. 生活文化への注目と寛容性
3. 両国共有の歴史文化を思考の素地に
7．桜に思いを……64
おわりに……65

はじめに

周恩来の名は日本でいまもよく知られている。原籍は浙江省紹興市、1898 年 3 月 5 日に江蘇省淮安市に生まれる。13 歳の時から歴史が動いた激動の中、1911 年の辛亥革命、1912 年の清王朝崩壊に代わる中華民国の建国等を体験してきた。1913 年に入った天津の南開中学校を 1917 年 9 月の卒業後、10 月日本の東亜高等予備学校、東京神田区高等予備校（法政大学の付属学校）、明治大学政治経済科（今の政治経済学部）に通ったという。日本語の習得不足により第一高等学校と東京高等師範学校の受験に失敗し、1919 年春帰国し、中国における新学期の秋 9 月開学した南開大学文学部に入学した。第一期生の学籍番号 62 番であった。

1919 年は周恩来にとって転機になっている。帰国間もなく、大学進学を前に起きた五・四運動に参加、政治に目覚め翌 1920 年パリへ、欧州留学をした。1924 年帰国し、1925 年に学友鄧潁超女史と結婚した。彼女とは五・四運動で知り合っている。1949 年の建国の新中国では総理に就き、1972 年には念願の日中国交正常化を実現させた。重症の膀胱癌ではあったが、1976 年 1 月 8 日の死直前まで国事に精勤した。

日本との縁は深い。遡れば 21 歳の周恩来が 1919 年春、日本留学を諦観しているが、日本から去りがたく、惜別の感を漂よわせた。帰国する前、桜咲くころのひと月余り京都に滞在した。当時まだまだ交通不便な都の西郊の名勝地・嵐山を一日だけでなく二日も逍遥していた。嵐山散策の心象を、周恩来は「雨中嵐山」という詩に詠んだ。「雨中嵐山」を深く読み、嵐山探訪のルートをさぐれば、雨中の嵐山を二回も訪ねた理由が窺える。周恩来にとって、あきらめたにかかわらず日本留学の体験がその後の総理・周恩来を決定づけたものであったことが浮き出てくる。これを書いている 2019 年が「雨中嵐山」の探訪から数えて百年を迎えたというのも定めを感ずる。

嵐山を望む公園に 1989 年、90 という高齢を迎えた日本国際貿易促進協会京都総局会長 (当時) の吉村孫三郎ら日本の有志と日中友好団体の発起により、周恩来記念詩碑が建立された。記念詩碑の正面に「雨中嵐山」が刻まれており、裏面に詩碑建立に貢献した団体や代表者名が記されている。2019 年は建碑 40 周年記念でもある。

1919 年 4 月 5 日、嵐山に雨が降っていた。周恩来がこの日に散策している。限られた帰国前の時間を嵐山逍遥に充てた理由はいったいなにか。それは新中国の総理を背負い、1972 年の日中国交回復など一連の対日政策を決断された周恩来にどんな影響を与えられたのか、小文では調査研究に基づく分析報告を概述させていただく。

1．「雨中嵐山」のルート

1919 年 4 月 5 日、「雨中嵐山」以外に、周恩来は「雨後嵐山」の詩も詠んだ。この二篇の詩は、救国の道を探求していた青年周恩来が真理の光明を見出した感銘に満ちている。しかしながら周恩来の嵐山詩作の背景を考証する資料は、現在二篇の詩作のみである。その中で「雨中嵐山」は、広く知られている嵐山にある詩碑の題名であるが、本来「雨中嵐山―日本京都」である。詩二篇とは、

●雨中嵐山――日本京都 (一九一九年四月五日に作る)

雨の中を二度嵐山に遊ぶ
両岸の青き松に　いく株かの桜まじる
道の尽きるやひときわ高き山見ゆ
流れ出る泉は緑に映え　石をめぐりて人を照らす
雨濛々として霧深く
陽の光雲間より射して　いよいよなまめかし
世のもろもろの真理は　求めるほどに模糊とするも

—模糊の中にたまさかに一点の光明を見出せば
真にいよいよなまめかし
（訳：蔡子民　日本国際貿易促進協会京都総局ホームページによる）

http://www.japitkyoto.jp/shu-onrai/

○中国語の原作・雨中嵐山

雨中二次遊嵐山、
両岸蒼松、夾着幾株桜。
到尽処突見一山高、
流出泉水緑如許、繞石照人。
瀟瀟雨、霧蒙濃、
一線陽光穿雲出、愈見姣妍。
人間的万象真理、愈求愈模糊、
—模糊中偶然見着一点光明、真愈覚姣妍。

●雨後嵐山

山あいの雨が通り過ぎると、雲がますます暗くなり、
ようやく黄昏が近づく。
万緑に抱かれた一群の桜は、
うっすらと赤くしなやかで、人の心を酔わせるほど惹きつける。
人為も借りず、人の束縛も受けない、自然の美しさ。
考えれば、あの宗教、礼法、旧文芸……粉飾物が、信仰とか、情感とか、美観とかを説く、
人々を支配する学説に今なお存在する。
高きに登り遠くを望めば、青山は限りなく広く、覆い被された白雲は帯のようだ。
あまりの稲妻が、ぼんやり暗くなった都市に光を射す。
この時、島民の胸中が、あたかも情景より呼び出されるようだ。
元老、軍閥、党閥、資本家……は、今より後、「何を当てにしようとするのか」？

（http://dalianjingdu.kyotolog.net/ 日中関係 / 雨中嵐山の詩碑）

○中国語の原作・雨后嵐山

山中雨過雲愈暗、
漸近黄昏
万緑中拥出一叢樱，
淡紅嬌嫩、惹得人心醉。
自然美、不假人工、
不受人拘束、
想起那宗教、礼法、旧文艺、……粉飾的東西、
還在那講什么信仰，情感，美観……的制人学説。

登高遠望，
青山渺渺，
被遮掩的白雲如帯、
十数電光、射出那渺茫黒暗的城市。
此刻島民心理、仿佛従情景中呼出、
元老、軍閥、党閥、资本家、……
従此後”将何所恃”

二篇の詩を読み解くことで、対峙した嵐山との一体感が浮かびあがる。周恩来の歩行に相応し、描写された景観のスポットが変化していくのである。まず、「雨中嵐山」が読者に想像させるのは、雨に浮かぶ

水墨画に似た風景である。川面がなんとも幽邃で広々と浮かびあがり、流れ出る泉の水は緑のごとく、河畔の山岳がすっくと立っている。これこそ景色が突然に切り替わった瞬間となる。そもそも霧雨の朦朧とした中で一筋の光が漏れてきたのである。それは自然よりの諭しの如く、周恩来が万物真理とは求めるほど感じ捉えられるものだと悟るのである。

「雨中嵐山」に続いて、「雨後嵐山」では雨が止み、「山中雨過」の景観に移り変わる。周恩来が川沿い道の突き当りのところで、山の上のほうへ登っていくと、「青山渺渺」があり、「渺茫黒暗的城市」も見えたとされる。二編の詩に納められた時間帯の前後関係から見れば、「雨中嵐山」が昼間であり、「雨後嵐山」は夕方を過ぎ、夜を迎えてくる頃と考えられる。つまり、1919 年 4 月 5 日の嵐山行きが一日がかりであった。

筆者は 2015 年と 2016 年にあわせて数回、雨の中の嵐山を歩いた。百年前の周恩来と同じ空模様のもとで創詩の現場に触れてみたかったからである。そこで一回目の嵐山行きは天龍寺などの名所も含める 4 月初めの観光と納得したのであるが、そこから 4 月 5 日に目指される二回目の理由を突き止める必要に至った。

まず二篇の詩の内容に沿って、周恩来のルートを探ってみる。

周恩来が嵐電の嵐山駅から渡月橋へ向かい、橋渡りをしてから、川の南岸に沿った小道に入り、40 分ほど直進して、大悲閣千光寺への参道とわかる急な上がりになる。渡月橋から大悲閣千光寺までは約 1 キロ、上りの参道は 200 段の石段である。

黎帆作成絵図　雨中二度目の嵐山行きと大悲閣千光寺への路線図

あらためて当時を想う。4 月 5 日、周恩来は友人の家である左京区松ヶ崎堂之上町 (現在の左京区役所の住所) から出発し、9 年ほど前に開業した京福電車に乗った。下車後の周恩来が渡月橋を渡り、40 分ほど歩いた目の前の景観に震撼した。山水に囲まれた道の突き当りが、大悲閣千光寺参道の入り口に通じていた。その風景をリアルに「雨中嵐山」に描いている。「突見一山高（道の尽きるやひときわ高き山見ゆ）」があり、参道入り口の右手には「流出泉水緑如許（流れ出る泉は緑に映え）」、「繞石照人（石をめぐりて人を照らす）」のである。おおむね今と変わらない。

大悲閣千光寺参道入り口　王敏撮影

2．周恩来を導いた日本の大禹

1. 亀山公園の角倉了以銅像

嵐山一帯は 1910 年ごろに二つの公園を開き、左岸を嵐山公園、右岸を亀山公園とした。この公園を開いたことにより観光客が絶えず、古今を通じた観光業を支えた。山紫水明、春は桜、秋は紅葉と、「京都第一の観光名所」と称されている。亀山公園の南口近くに、日本の大禹（中国古代の治水帝王）と称された水運家である角倉了以の銅像が立っている。この銅像は 1912 年に建造された。銅像は第二次大戦時に供出されたが、1988 年に新たに建造された。建造年代が異なるが、角倉了以の銅像は 40 年前に建立した周恩来の詩碑とは目と鼻の間のところで向かい合って相唱和されているようである。

（王敏撮影）

井上頴纘 (1969) の「亀岡盆地における大堰川流路変遷の復原」(『人文地理』第 21 巻 6 号 pp.91 － 100)、武藤信夫・佐藤陽一 (2002) の「角倉了以・素庵―世界に先駆け、経営倫理を実践」(『日本経営倫理学会誌』第 9 号 pp115 － 123）の記述によると、日本と明朝は勘合貿易 (明王朝が認めた正式な貿易船) が持続され、戦争などの動乱により一度は中断してしまい、豊臣秀吉の天下統一後の 1592 年 (文禄元年) 再度動き出した。この動きと世界情勢が顕著に関連するようなったのは、十六世紀半ば、世界は大航海時代に突入したためであった。ところが日本は世界通商へ熟することなく鎖国へと突き進む。その直前、江戸時代初期のわずかの時間、制限を受けつつも航海時代の潮流に乗ろうとした者がいた。京出身の角倉了以である。十七回の海外通商を積み、巨万の富を蓄えた。

角倉了以（1554 － 1614)、医者の家系に生まれた。祖父は一代で身を起こし、角倉家は医業以外にも商売を兼業することとなった。1592 年、了以は海洋貿易に身を投じ、豊臣秀吉 (1536 － 1598) や徳川家康 (1542 － 1616) の発行した朱印状を手に入れた。朱印船貿易という開運の寵児となった。瞬く間に豪商のトップに上り詰めた。1605 年 (慶長 10 年)、了以は京都西部を流れる大堰川の上流の保津川の開削を行い、６カ月という短期間で 30㎞の運河を開通し、世間を驚かせた。前例のない奇跡を創造できた精神は大禹に学んだといわれる。

『前橋旧蔵聞書・六』などの資料によると、大禹に倣い、角倉了以は終日手に斧を持ち、民工と共に開削現場にて奮闘した。開削後、了以は水上運輸事業の技術者の家族たちを開墾地に定住させたのが今日の京都市右京区である。了以の偉業を記念した嵯峨天龍寺角倉町という地名が今も存在している。

あの時代、「朱印船」とは当局・幕府が許可した「海外渡航許可証」を有する木造船を指す。航海ルートは江戸時代だと長崎県の平戸、長崎を基地にして、大陸や東南アジアとの間を往来した。マカオ、シャム（タイ)、マレーシアなど、マラッカ海峡まで航海した。日本は当時、世界で有数の銀産出国であり、銀を使った貿易は国力を増強できた。角倉了以は「窮則独善其見、富則兼済天下」の理念を掲げ、アジア全域との海運貿易で得た巨額の利益を国内の水運路の開削に投じた。

朱印船貿易航海路線

（https://upload.wikimedia.org/wikipedia/commons/7/76/JapaneseTrade17thCentury.jpg）

幕府は保津川開削の実績を評価して、了以に富士川、高瀬川を相次ぎ開削させた。晩年の了以が天竜川の開削工事の途中でやむを得ず中止せざるえなかった。了以は長年の疲労が重なり、志半ばでこの世を去った。享年 61 歳。

晩年の了以は、水運事業に献身し命を失った農夫たちの供養を怠らなかったという。自分の死後は利水事業を見守るかのように建つ大悲閣千光寺に葬られた。長男の素案 (1571 － 1632) が、石割斧を持った了以の像を寄進した。災害にあったため墓は近くの二尊院に移され、妻子や子孫たちと共に眠っている。

その前の 1611 年 (慶長 16 年)、角倉了以は独占した朱印状を長男の素案に譲り、貿易事業の第一線から退いた。継いだ素案は貿易だけでなく、親と同様、水利土木事業にも携わり、河川流域の開発に力を注いだ。淀川通船輸送管理者や巨材採運使、近江国坂田郡代官に任命され、国際貿易の日本国大使役も担った。また、日本儒学の先駆者であり大家でもある藤原惺窩に師事し、書道家・画家の本阿弥光悦と親交して嵯峨本を共同出版した。書道の角倉流を創設し、文化や芸術史上において重要な貢献をした。

大辞泉にて「嵯峨本」の「嵯峨」は京都の西郊一帯を指しており、「本」は本阿弥光悦と角倉素案らが共同刊行した木製活字版本であると解説している。雅やかな意匠を施した日本式豪華版を誕生させたのである。

ともあれ、1606 年に成功した嵐山の大堰川疎通の開発は角倉了以を嵐山と確固たる絆で結ばせた。

2. 大悲閣千光寺と隠元

本来、大悲閣千光寺は第八十八代後嵯峨天皇 (1220 － 1272) の祈祷所であり、京都市右京区の清涼寺の西方中院にあった。大悲閣の由来は本尊の観音様の仏堂「観音堂」より来ている。江戸初期の 1614 年 (慶長 19 年) に角倉了以が大堰川を開削する工事で亡くなった人々を弔うために、大悲閣千光寺を清涼寺から、大堰川沿いの保津峡の絶壁の上に移転させた。そこから遠くまで見渡せ、疎通後の河川を眺めることができるから。晩年の角倉了以は大悲閣千光寺で修行に明け暮れ、事業のため犠牲となった多くの人々の魂の安息を祈った。

1614 年、角倉了以がこの世を去る前、二尊院の道空了椿を請じて大悲閣千光寺の中興の開山とした。大悲閣に了以が石斧をもった大禹を模した治水の木像を安置する遺志に従い、素案は寺内に了以の木像を安置した。1630 年、儒学家の林羅山が撰文した「河道主事嵯峨吉田 (角倉) 了以翁碑銘」という記念碑が建てられた。

その後、日本の大禹の壮志は伝承されていく道端、明治維新の西洋価値の優位によって、千光寺は衰退の道をたどった。大悲閣の仏堂や院が凋落していった。また、1959 年の伊勢湾台風により大きな被害を

受けた災難にも重なった。幸いに住職たちの堅忍不抜な努力の下、寺はどうにか半世紀の苦難を堪えることができて、2012 年にようやく全面的修復が完了し、無事に線香の火種が絶えず燃え続けている。

記紀によると、六世紀に中国経由の仏教が日本に入った。現在、その仏教を代表する宗派が 13 もある。その内、禅宗がさらに三つに分かれている。臨済宗、曹洞宗、黄檗宗である。大悲閣千光寺は本来天台宗であり、1808 年に黄檗宗に改宗し、山号を嵐山として寺号の総称は大悲閣千光寺である。

黄檗宗は臨済宗と曹洞宗に比べれば規模が下回る。本山は京の南、宇治市にある萬福寺 (山号は黄檗山)、開山始祖は 1654 年に請われて渡来した中国福建省出身の隠元隆琦 (1592 － 1673) である。隠元以来 13 代までは明と清の渡来僧が住持を継続した。臨済宗・黄檗宗のホームページによれば、現在、全国に 15 派の本山と 7000 もの末寺があるという。日本では明治の一時期、黄檗宗は臨済宗に吸収された。

隠元は 1592 年 11 月 4 日に福州府福清県万安郷霊得里東林の林家に生れた。1620 年、故郷の黄檗山萬福寺で出家し、法号は隠元、法名は隆琦とした。その後、各地を遍参して臨済宗第三十二代の直系人となった。1660 年、山城国宇治郡大和田に幕府から寺地を賜り、1661 年に大陸故郷と同名の黄檗山萬福寺を開創した。文人でもあった後水尾法皇 (1596 － 1680) の帰依に恵まれたうえ、徳川幕府四代将軍徳川家綱 (1641 － 1680) の庇護を受け、1663 年 1 月 15 日祝国開堂をしてから、1664 年 9 月に松隠堂に退隠したが、1673 年 4 月 1 日、後水尾法皇から大光普照国師号を下賜され、4 月 3 日、82 歳で逝去した。

隠元が明代の先進な技術、建築、園芸、料理、文学、医学、煎茶等を伝道して、日本の社会一新を牽引した。この社会現象を「黄檗文化」と称され、隠元も心安らに日本に余生を託した。

隠元に帰依したほかの皇族をあげれば、圓光院文英夫人 (生没年不詳)、後西天皇 (1654 － 1663)、緋宮光子内親王 (1634 － 1727) らがいるので、皇室より幾度も諡号 [1] を賜ったのが隠元である。

1673 年 4 月 2 日、後水尾天皇より大光普照国師
1722 年、霊元上皇より佛慈広鑑国師
1772 年、後桜町上皇より径山首出国師
1917 年、大正天皇より真空大師
1972 年、昭和天皇より華光大師

また武家をみれば、家綱将軍のほか、老中の酒井忠勝 (1587 － 1662)、大名の板倉重宗 (1586 － 1656)、松平信綱 (1596 － 1662)、[2] 京都所司代の牧野親成らが帰依した。

大悲閣千光寺には、隠元の題辞額「香門瑞現」が本堂に掲げられている。

寒天撮影

1 林観潮 (2010).『隠元隆琦禅師』. 厦門大学出版社 ,pp141
2 林観潮 (2010).『隠元隆琦禅師』. 厦門大学出版社 ,pp143

3. 高泉性激の詩碑

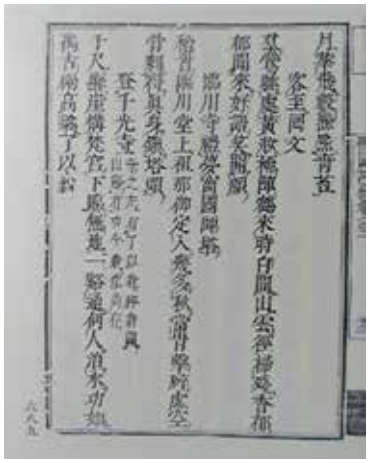
大悲閣千光寺に向かう参道には 200 段の石階段があることは述べた。参道入り口の両脇には花崗岩の石碑が構えてある。高さ 226㎝、幅 39㎝、厚さ 29㎝もの石碑に、隠元禅師の弟子高泉性激の詩「登千光寺」が刻まれている。

千尺悬崖构梵宫，
下临天地一溪通。
何人治水功如禹，
古碣高镌了以翁。

＜日本語訳・**大悲閣に登る**＞
千尺の懸崖、梵宮を構えたり
下に地の無きを臨めば一渓通ず
何人の治水、功は禹の如くたらんや
古碣は高らかに鐫る了以翁

https://office34.exblog.jp/15069950/

原詩が黄檗文化研究所の『高泉全集』編纂委員会編集、黄檗山萬福寺文華殿から 2014 年 3 月刊行の 4 巻本『高泉全集』Ⅱ詩文集篇　第 2 巻第 689 ページに収められている。「佛国詩偈」に分類分けされている。高泉の年譜によると、1678 年に高泉が門弟の雷洲が開創した佛国寺の開山となり、佛国寺の (現在の伏見区大亀谷敦賀町仏国寺) の住持を一時務めていた。これより推定でしかないが、この詩を詠んだ時期は 1678 年より以後といえよう。



詩の題名と詩本文との間に 2 行にわたり「寺之左有了以翁碑翁闢山谿有功今造像尚存」とある。「了以翁」は角倉了以を指し、「了以翁碑」は儒家の大家である林羅山 (1538 － 1657) が撰文した「河道主事嵯峨吉田 (角倉) 了以翁碑銘」の石碑を指している。石碑の高さはおよそ 2 メートル、幅 0.9 メートルであり、左上の角が破損している。碑文は 2000 文字余りであり、文中の個別の文字がはっきりとせず、識別がしづらい。伊東宗裕編『林羅山文集』509 から 512 ページに収録されている。碑文の内容は以下のアドレスから調べられる。

www.kinsei-izen.com/images/26_Kyoto/Ryoui-himei.pdf

つまり、高泉が寺院の歴史的由来などを把握している。林羅山の才能と角倉了以の精神を深く理解したうえで、「登千光寺」を詠んだと推察する。よって、詩の中で、林羅山の碑文に応対して、大禹と角倉了以を同格に論じている。

「何人治水功如禹、古碣高鐫了以翁（何人の治水、功は禹の如くたらんや　古碣は高らかに鐫る了以翁)」。

これは林羅山に対する唱和であり、また了以に対する称賛でもある。

高泉性激は、また黄檗高泉 (1633 － 1695) とも称される。福建省福清市出身の黄檗宗の僧である。1661 年、29 歳の高泉は隠元の招待を受け、京都の黄檗山萬福寺に入寺する。『妙法蓮華経』ほか 30 余巻を血書している。1692 年に萬福寺の第五代住持に就いた。霊元上皇より 1705 年に大圓広慧国師、1727 年には仏知常照国師に諡号を送られている。後世では高泉は黄檗山中興の祖として祀った。世寿 63 歳。

大悲閣千光寺は 1808 年より黄檗宗に改宗となった。黄檗宗の高泉の存在とは無関係ではないと推察する。

3. 大禹と角倉了以に注目する理由

「雨中嵐山」の決行理由について分析していく。

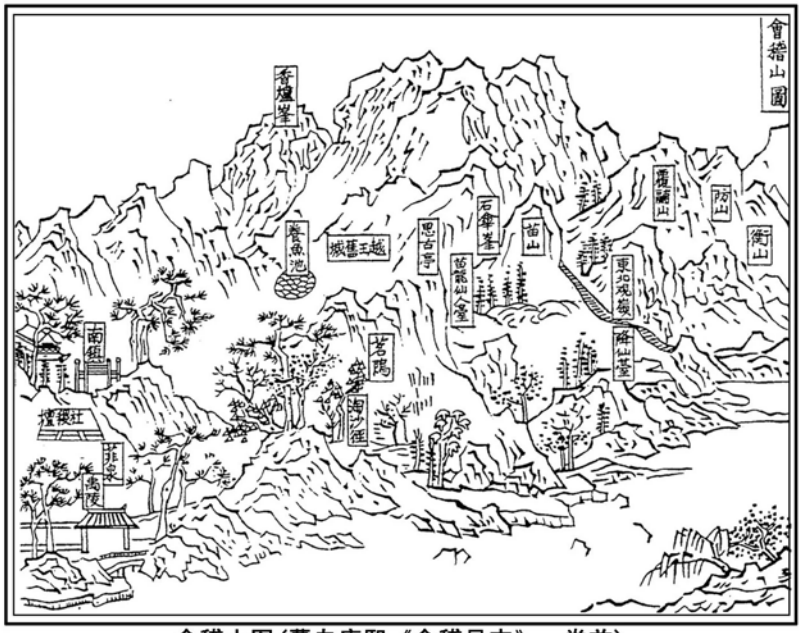
1. 治水の家の歴史

周恩来の母の万冬爾 (1877 － 1907) は江西省南昌県人。その父は清河県 (現淮陰県) の県知事兼水利担当の官僚であった。1897 年、20 歳になった万冬爾は周劭綱に嫁いだ。三人の男子を生み、彼女が最も愛したのが長男の周恩来であった。しかし周恩来が一歳になる前に、父母は子供のいない叔父夫婦の養子となった。1904 年周恩来が 6 歳の時、養父が逝去。養母と実の両親と共に母方の祖父の家がある清河県に移動し、祖父の家の私塾で勉強をした。

楊天石、章百家らが推薦する 2017 年九州出版社から出版された李海文の著作『周恩来家世』によると、周恩来の母方の祖父である万青選は、淮安府県に赴任されると水利の「里河同知」も受け持った。後に徐州府の「運河同知」も受け持ち、治水の水利専門家であった。周恩来の姪である周秉宜女史は筆者にこう話してくれた。万青選の長男もまた水利に詳しく、万家は 3 代にわたり、治水に関係したのである。このため、家庭生活の水文化の情報が必然的に周恩来の耳に入り、水に関する知識が培われた。

2. 祖先祭祀習俗

周恩来出生の地は今日の浙江省淮安市である。祖籍は浙江省紹興市である。紹興は紹興酒の産地以外に、大書道家である王羲之 (303 － 361) や作家の魯迅 (1881 － 1936)、教育者の蔡元培 (1868 － 1940) の著名人を生んだ地である。史伝にある治水賢王たる大禹陵などの 40 余りの大禹の活動遺跡の史跡もまた紹興が発生源である。紀元前 210 年より秦の始皇帝が禹を祭って以来、歴代の王もその歴史を受け、遵守していた。960 年、宋王朝の宋の太祖が大禹を国家常典にした。民国時代、さらに禹王を祭る定位を「国祭」とし、毎年 9 月 9 日は国を挙げての祭祀である。清康熙 13 年（1674 年）発刊の地方誌『会稽県誌』28 巻刻本（「清」呂化龍修　董欽徳纂）の巻首にある大禹陵の地図が往時の位置づけを語ってくれている。



会稽山图（摹自康熙《会稽县志》，卷首）

続いて空撮による大禹陵を、川の右側にある古建築群をみていただきたい。

（紹興日報社　袁雲撮影）

大禹の聖地ともいえる紹興に相応しく、今も 40 数カ所の禹王ゆかりの旧跡名所があるという。その一部を邱志荣監修『中国鑑湖』第五期（中国文史出版社　2018 年）に掲載されたものを挙げておく。

紹興禹跡一覧表

紹興と大禹の歴史的淵源は魯迅と関連した一枚の写真からも窺い知ることができる。これは 1911 年の早春、魯迅と紹興府中学堂の教員と同級生らと大禹陵に参拝した時の写真である。地元にとって、大禹陵を参拝することは古今の大切な行事である。

幼少より大禹文化の薫陶を受けた周恩来が日本から帰国して 20 年たった 1939 年 3 月 30 日朝、親戚友人と共に大禹陵へ参拝した。

いうまでもなく、まもなく迎えてくる4月5日の清明節を意識したから。

当時の記念写真（2枚）が紹興周恩来祖居記念館より提供されている

3. 清明節と「雨」

中国の暦で4月5日は清明節とされる。

1919年4月5日の嵐山は雨である。中国人にとって、清明の日の雨は先祖の涙雨とされる。その理由は唐代詩人の杜牧の名詩「清明」に由来する。

清明時節雨紛紛
路上行人欲斷魂
借問酒家何處在
牧童遙指杏花村

書き下し文

清明の時節雨粉粉
路上の行人魂を斷たんと欲す
借問す酒家何れの處にか在る
牧童遙かに指さす杏花の村

（「漢詩 書き下し文 現代語訳」より http://sekiso.blog.jp/archives/1759067.html）

偶然かもしれない。その身が日本にあった周恩来は清明節の先祖祭祀の時期を迎える心情になった。「清明時節雨紛紛」（清明の時節　雨紛紛（ふんぷん））の中を、日本の大禹・角倉了以の銅像が閃き、周恩来を「雨中二次遊嵐山」の決行を誘ったとしか思えない。

ところが、1919年の清明節は1日ずれて4月6日である。

https://zhidao.baidu.com/question/1734974743965851667.htmlBaiDu 知道网にある記載より、1901年から1943年の「清明」は4月6日になる現象が数回あった。だが、このような特殊なカレンダーを周恩来は知らないでいた可能性がある。あるいは知っていながらも「清明時節雨紛紛」という天道様の計らいを見逃さず、例年通りの先祖祭祀を行ったかもしれない。

記録によれば、1919年の4月6日は周恩来が新中学会[i]の8名の会員と京都懇談をしている。会員は京都帝国大学で学んでいる安体誠[3]と于樹徳[4]、東京の馬洗凡[ii]と童冠賢[5]及び、東京水産講習所卒業の楊扶清[6]と

3 安体誠 (1896 － 1927) 河北省豊潤県人。1917年京都帝国大学経済学部に入学し、東京新中学会会員となった。1921年に帰国し、1927年上海竜華監獄にて犠牲となった。

4 于樹徳 (1894 － 1982) 天津市静海県人。1917年京都帝国大学に入学し、東京新中学会会員となる。1921年に帰国し、後に李大剣と共に戦う。新中国成立後、第1から6回までの全国政協委員となり、第5、第6回全国政協常務委員となる。1982年病没す。

5 童冠賢 (1894 － 1981) 河北省陽原県人。新中学会創設メンバーの一人。1926年帰国し、1948年立法院長に任じられる。1981年カナダにて病没す。

6 楊扶清 (1891 － 1978) 河北省楽亭県人。1915年に来日し、1920年に帰国。実業救国を施行し、解放後は水産部副部長に任じられ、全国人民代表でもあった。

張子倫[7]らである。周恩来の送別会でもある集いの記念写真に 4 月 6 日の日付が記されてある。

写真は左より、輔青 (楊扶静)、永滋 (于樹徳)、翔宇 (周恩来)、東美 (劉東美)
洗凡 (馬汝駿)、冠賢 (童冠賢)、子倫 (張国経)、朴岩 (黄開山)、存斎 (安体誠)

4. 中学の作文に書き留めた大禹

周恩来が南開中学に在籍時に、３回ほど作文の中で大禹に触れた。この３篇の作文を含めて 2014 年、人民出版より中共中央文献研究室第二編研部と天津南開中学の編集した『周恩来南開中学論説文集』が出版されている。相関内容の原文に簡単な解説を付けて紹介しておく。

① 1914 年秋の作文「生人最宝貴者、無過于光陰」

「大禹惜寸、陶侃惜分、視光陰之可貴、在昔已然」。[8]

陶侃は東晋の名将であり、常に諭されるのは「大禹のような聖人でも一寸の光陰を惜しんだ。我々のような凡人は更に光陰を惜しむべきである。放逸して遊び、光陰を浪費できるものだろうか」と。このような光陰を惜しむことは古来よりあったという。

② 1916 年 5 月 6 日の作文「誠能動物論」

「下車泣過、大禹之誠感罪、祷雨桑林、商湯之誠格上天」。[9]

ここで述べていることは大王が一度車に乗り巡査しに外に出た時に、一人の護送された罪人と出会い、大禹が車から下り何事かと聞きに行く場面である。本来この罪人は悪事を働き罰を受けるのである。大禹は事情を聴いた後に不覚にも涙を落とす。周りの人々は「この犯罪人は法令を守らなかったから、その罪は受けるべきものです。何か痛惜するものがありますか」と聞いた。大禹は「尭舜の時代は、天下の人は皆本分を守っており、悪事を働き罰を受けたということは聞いたことがなかった。ところが今、私の執政は人に徳を為さず、犯罪人は民である。それは私の不徳の致すところである」と答えた。禹王は側にいるものに亀の甲羅を 1 枚取り出すようすぐに命じた。そしてその上にこう記した。「百姓有罪、在于一人」。

商（殷）を開国した成湯は夏を滅ぼしたが、大旱魃に見舞われ、五年間で作物を収穫できなかった。成湯は自ら桑の林の中で雨乞いを行った。その際、成湯はこう天に伝えた。「私一人に罪があり、民を巻き添えにしないでもらいたい。もし民に罪があるのならば、私一人がそれを担おう」ほどなくして天から慈雨が降ったという。

7 張子倫 (1894 － 1959) 河北省楽亭県人。1915 年に来日し、1920 年に帰国。楊扶清と共に新中罐食品工場を設立する。
8 中共中央文献研究室第二編研部と天津南開中学編集 (2014).『周恩来南開中学論説文集』. 人民出版社 ,37-38pp
9 前掲書、p.166

③ 1916 年 10 月の作文「我之人格観」

「禹、湯、文、武以之鳴于政綱」。[10]

「大禹下車泣盗、商湯祈雨桑林、是聖人以背于正道、而引以為良心未安」。[11]

まずここで述べていることは大人物についてであり、彼らの生存は人類に非常に重要である。即ち彼らが常道 (正道) であるからだ。大禹、商湯、周の文王と武王はそれを政綱に体現している。

次に述べていることは大禹が車から下り罪人について泣き、商の成湯が桑林で雨乞いを行った。これは彼ら偉人が正道に矛盾を感じる故に、良心が安定していないことである。

周恩来が持つ大禹に対する認識は知識面に限った理解ではないことがわかる。少年の彼が注目した焦点は大禹の精神と実践である。

4.「一点の光明」とは

大悲閣千光寺に入ると、「日本の大禹」・角倉了以の木像が寺内に正殿の中に奉納されており、記念碑文が日本屈指の儒家・林羅山に揮毫されている。お二人の思考を受けて後世に伝えたかったのは、隠元の弟子・高泉である。それを反映した高泉の詩が寺院参道入り口の両脇石碑に篆刻されている。これらの人物が一体となり、結果的に大悲閣千光寺に集中する。そこから中日混合文化のパワーが、力強く放射し出されている。周恩来の胸に溢れた歴史文化の知を必然的に誘発したのであろう。また、大禹を介する故郷と祖国への思いを自然に引き起こしたと想定される。同時に日本への親近感と認識を今一度、縦横に深化させたに違いない。

この角度から考えられるに、周恩来は嵐山で出会った人、物、事に接して感慨を深め、本能的に日本での考察体験を整理したくなっただろう。そこで中日間の特殊な歴史文化関係に気づき、両国共有の結び目の素材 (大禹、隠元、高泉など) に目をかけることになるだろう。この線で思索の通路をたどっていくと、習俗など生活面に集中された共有の原点にそう難しくなく辿り着いた。即ち、同じ漢字を使い、同じ漢文を読む両国民には、教養体系も価値標準も起源に合流できる。大禹信仰が日本に根を下ろし、日本の生活面と精神面に浸透した身近な事例ではないか。角倉了以が大禹精神をもって、事業展開に成功したうえ、科学と経済の力で国富民強の可能性を諭した。これは救国の志を胸に秘めた周恩来にとって、貴重な参照枠として受け止めたに違いない。

古今、日中間の間では表現（漢字）の障害が少ないため、相互刺激、相互発展を可能にした現象がほかにも多くあげられる。どれも漢字文明圏内の相互の融合と作用からできあがった必然の結果を反映している。しかし、大禹から角倉了以へ、そして若き周恩来に至る啓発型の精神リレーが、日中交流史においても極めて象徴性が強い。

この発想に従うと、1971 年 1 月 29 日に周恩来が人民大会堂で日本卓球協会の後藤鉀二会長一行と会見した際に語った内容について、新しい認識と解釈を与えることができよう。

「私は帰国前に京都に 1 カ月ほど逗留しました。船に乗り洞窟を通り抜け、琵琶湖に行きました。琵琶湖は大変美しいですね」。[12]

琵琶湖の魅力は、近江八景によく集約される。中国の洞庭湖の瀟湘（しょうしょう）八景にならったことは知られる。周恩来が琵琶湖行きを選択したのには、話が数十年隔てて再度及び、あの山水の美しさから見て十分にわかる。しかし深く探求するのであれば琵琶湖行きを選択した深層にはさぞ意図があろう。

10 前掲書、p.206

11 前掲書、p.206

12（1993).『周恩来外交活動大事記 (1949 － 1975)』. 世界知識出版社 .pp.145 － 146,pp.577 － 578

まず、周恩来にいわれた琵琶湖の「洞窟」とは、1912 年に完成した琵琶湖疎水のトンネルを指したと思われる。比叡山系（最高標高 848 メートル）を掘削して全長 18 キロ、幅 6.4 ～ 11.5 メートル、水深 1.7 メートルのトンネルで、琵琶湖の澄んだ水を京都に引いた。日本人だけで近代工法によるトンネル掘削技術を駆使して 12 年越しで貫通させた画期的土木事業であった。周恩来が「洞窟」を通ったのは完成して七年もたっていないころで、日本人の自助による近代工法の「疎通」工事であり、貴重な体験であったことは間違いない。

たぶん、琵琶湖行きは二回目の嵐山考察に連結すると推し量れる。なぜなら角倉了以が晩年に琵琶湖開発をしようと企画したことが周知されているから。琵琶湖開発をも角倉了以なりの大禹精神の実践の一環と理解されよう、周恩来が関連資料を調べた可能性が高い。

では、周恩来はどうやって角倉了以に秘めた未完成の琵琶湖開発構想にたどり着けたのであろうか。この問題に対しては更に考察考証が必要であるが、現に二つの可能性を挙げられる。第一、現代人の観光客と同じく、若く力がみなぎっていた周恩来は可能な限り名所を訪れようと考え、隠元が開山し、高泉が第五代住持に任ぜられた萬福寺や角倉了以が暮らしたことのある嵯峨旧居などに足を運ぶことを想像される。これは事実となれれば、行く先々から角倉了以関係の諸資料を手に入れられることになる。

第二、1897 年の明治 30 年に発行された代表的少年雑誌『少年世界』の中に、角倉了以の伝記「治水長者」が掲載されている。角倉了以が当時もお手本とされているため、図書館などで相関する書物が読まれるはずである。広く読書する意識を持つ周恩来が見逃されないと思われる。

要は嵐山に点在される人物の角倉了以、大禹、隠元、高泉等の痕跡に、日中共有の歴史文化の要素が潜在してある。それは角倉了以という日本人の実践によって、鮮明に浮き彫りにされてくる。このところに敏感に反応したのは周恩来であり、嵐山の次に琵琶湖疎水探訪に乗り出した誘因である。いい換えれば、「一点の光明」を確認しつつ探求して止めない行動の連鎖であろう。

「一点の光明」とは、救国のための啓示を得られたことを意味する。中国では、民を救済した先駆者が治水の大禹である。大禹の治水技術と精神を理想とするのが中国人の常識とされる。ところが、大禹精神を異邦で実現した角倉了以の事例が刺激的だけではなく、中国のための参考になると、周恩来が気づいたろう。角倉了以の銅像の前に立って、大禹と重ねる周恩来の若き姿が目に浮かんでくる。

5．周恩来と大禹精神の緊密な結びつき

1. 対日民間外交のヒント

以上の概略を基に考察を進めれば、周恩来が角倉了以をめぐる日中の融合混成関係に対する認識の深化が嵐山を重要な背景にしたと考察できる。これは治国の参考素材を見つけたい周恩来の２度も嵐山を逍遥した動機でもあろう。

周恩来と大禹精神の緊密な結びつきは疑う余地もないほど深いものである。新中国建国後の話になるが、外交だけでなく内政を総指揮する総理として、周恩来は治水のために四方に奔走し農業生産力を高めようとした。全国の貯水池の建設そして淮河や黄河を整備し、長江を利用し、雄大な水利事業を計画、推進した。これらは日本の禹王・角倉了以の事業にも刺激されたことと無縁ではない。

『周恩来年譜』の中に、２篇の大禹に関する論述がある。なお、この本は力平・馬芷蓀が中心となり、中共中央文献研究室編纂した。1898―1949 と 1949―1976 という二つに分かれた内容になっている。中央文献出版社と人民出版社から 1989 年３月、そして 1997 年６月に出版されている。前半の一部が 1998 年２月に修訂本が出版された。67 万字である。後半部分は上中下の３巻に分かれており、合わせて 156 万字である。

1946 年 11 月 30 日 (『周恩来年譜』電子版 ,433p)

周恩来は各解放区の水利聯席会議の代表と接見した時に、「大禹治水、三過家門而不入（治水のため、家を三度も通り過ぎた）」の故事を用いた。

1950 年 8 月 24 日 (『周恩来年譜』電子版 ,459p)

中華全国第一回自然科学工作者代表会議にて「建設与団結」をテーマにした報告がなされた。「大禹の治水は中華民族のために得た福利であり、中国科学者の努力は大禹よりもさらに大きな功績をきっと創り出すであろう」。

少年時代の周恩来が大禹の存在と意味に対して深く意識したとしたら、総理となった周恩来は大禹を文明の開拓者や科学の先駆者と定義づけ、新中国建設に必要な精神的象徴と、国を治め政治を行う際の参考としたといえる。

嵐山を逍遥した見聞を加えて、周恩来は、大禹と角倉了以の共通手法「疎通」について認識を一層深めたと想像できる。角倉了以が大禹の「疎通」を基本にした治水を、異国の日本に活用して成功したから、「疎通」の方法論を有効に生かせようと、内外に有用の「疎通」の可能性を見抜いたのが青年周恩来である。

「疎通」に気がかりの周恩来は 1939 年、江蘇省紹興に帰郷した際、次のように語った。

「抗日戦争中、我々は禹王とその故郷の英雄である勾践から、彼らの忍耐と苦労、そして奮闘する精神を学ばなければならない」。

「人と自然の対立において、禹は先駆者である。科学が発芽する時代、自然に勝つことは絶対的に容易ないことである。中国の歴代統治者は治水の方法を掌握しておらず、誘導の方法ではなく、圧迫する方法しか採らなかった。そのため独裁者は反乱を必ず受けて、失敗する」。

新中国建国後、周恩来は「疎通」から得られたヒントを対日外交に活用したともいえる。敵対関係を変えていくのに「疎通」が必須であり、中日両国間を「疎通」するには、少なくとも初期段階では、民間を主体とする外交の過程が要する。

なぜ民間なのか、日中両国の結び目・漢字の共有などを絡んで考えていけば、民間には共感、共鳴可能の教養の素地があることが、周恩来が自ら日本の生活を体験し、嵐山などを考察して会得したから。民間の可能性にかけたい判断をされる際、周恩来の脳裏に角倉了以と隠元、高泉そして嵐山、東京、日本への思いが霞んでいたかもしれない。いずれにせよ、嵐山で得られた「一点光明」の刺激が、後の対日外交の参考素材となり、疎通というヒントが民間を主体とする外交通路の打開に応用させただろう。

よって、建国間もない 1953 年 9 月 28 日、周恩来が新中国を訪問した最初の日本要人、日本平和擁護委員会委員長大山郁夫に丁重に決意を語った。

「われわれは，世界各国との正常な関係，とくに日本との正常な関係の回復を主張しています」。

当時のことにつき、世界知識出版社より 1955 年に発刊した『日本問題文件滙編』に「周恩来总理接见大山郁夫并就中日关系发表谈话」という記録にされてあり、116-118 ページを参照願おう。この言葉は日本体験が基になった周恩来の信念の具現化であり、対日民間外交の幕上げと理解できる。

2. 対日民間外交の実践

前述してきたように、留日での見聞がもとになったのであろう、周恩来は日本の民間の力につねに注目して、建国後は政府間ではなく民間外交を主導した。この選択をした当時の国際情勢的背景には、第 2 次大戦からまもなくであり、国共内戦をまだ戦っている最中の 1949 年前夜の新中国は、世界では孤立した状態にあり、国際地位を固めることが急務であった。新中国の成立前後はまだ社会主義勢力は弱体であり、建国間もなく 1950 年、朝鮮戦争が勃発して東アジアにも冷戦が燃え盛り、アメリカは「台湾地位未定論」を打ち出した。さらにアメリカは対日講和条約を急ぎ、日本を反共同盟国として早期の単独講和をめざし

た。対社会主義国家に対する戦略物資と技術を制限し、ソ連に対しては鉄のカーテン、中国に対しては竹のカーテンによって封じ込めんとした。

1951 年サンフランシスコにて会議が開かれ、アメリカが中国を排除した日本国との平和条約の話し合いの他、中国はサンフランシスコ講和条約と署名に加盟国参加に未加盟であった。これに対し、周恩来は中国政府を代表しサンフランシスコ講和条約を決して承認しないと声明を発表した。さらに台湾当局は日本と締結した「政党地位」獲得のため、講和を認めた。そして 1952 年 4 月、台湾当局は日本と「日台平和条約」を調印した。

この時期、国際情勢は戦後の日本を再浮上させ、中国外交の対象を日本に向けるようしたてられた一因もあるといえる。

朝鮮戦争停戦後、周恩来は国際情勢が相対的に緩和した時期を鋭くつかみ、大きく和平政策を促進させ、中国外交の新局面を打ち開いた。中でも国家間関係の平和五原則を提案し、インド、ミャンマーの両総理と共同提唱し、五原則を国際関係の普遍的規範と定めた。

1956 年末から 1964 年初めまで、周恩来は 3 度に分けてアジア・アフリカの 28 カ国を訪問し、友好協力関係をうち建て、発展させ、深い結びつきをつくった。これと同時に、先進資本主義国家に打ち建て発展した関係の道を積極的に求めた。日本に対しても、「先進資本主義」と位置づけした。

1980 年、中央文献出版社が発行し、中国外交部・中央文献研究室所編集の『周恩来外交文選』の中に関連する内容が触れられていた。例えば、第一回中国駐外使節会議上での発言が「我们的外交方針和任务」(1952 年 4 月 30 日) に収められてあり、日本に関係するところを抜粋してみよう。

「我々は世界各国の人民と団結し、兄弟国家の人民だけでなく、植民地であったまたは半植民地であった国と資本主義国家の人民をも、引き入れていく。しかし外交業務では、国家間の関係が対象となる。外交は国家間の関係を通じた関係で進行していく。だがスタンスはいまだ人民に影響や獲得することであり、弁証法的である。

「我が国とすでに国交を結んだ東南アジア国家は、過去に植民地であったが、現在形式をすでに変えただけではなく、自己の国会と政府を有し、同時に人民の覚醒により帝国主義が植民地に対する方法を変えざるを得ないようになった。そして現地の資産階級による統治が行われた。このような状況下で、もし現在まだある人があの国は植民地であるということは、まったくもって現実にそぐわないことである。例えば現在の日本もアメリカの植民地であるとはいえない。日本国民の主な闘争対象は、時にアメリカ帝国主義であったり、時に日本政府であったりする。帝国主義による直接統治こそが植民地である。東南アジア国家は戦争と和平問題において帝国主義とは矛盾を生ずる。我々は戦争時に彼らが中立であることを取り、和平時は彼らが帝国主義と距離を取るように引き込む」。

当時国内外の情勢の必要により、民間外交の実践は、理論を先行した。周恩来は長期に渡り、現場指導に力を入れ、民間外交の思想をまとめて論じる余裕がなかったと察する。突破口の最初は経済と貿易の交流を主とした。こんな事実が知られている。

1952 年の春、モスクワ国際経済会議招集の前に、周恩来は日本が会議に参加する情報を知り、直ちに中国代表団団長である南漢宸を中国人民銀行総裁に配置し、日本側と接触した。3 月 15 日に出発する中国代表団責任者に会って言付けし、中国側が自発的に日本側を招き、参加者と交流する際には、日本側に訪中するよう招待するようにといった。このため 1952 年 5 月に、高良とみ・帆足計と宮腰喜助の 3 名が北京を訪問し、6 月に中日貿易協定を締結した。これは新中国が迎えた戦後第一陣の日本の客人であった。中日間の署名の戦後第一段は中日民間貿易協定であった。

1953 年 9 月、日本の国会は中日民間貿易を促進する決議を通した。10 月、中国貿易促進委員会は日本

の国会議員に中日貿易連盟代表団が北京で「中日貿易協議」に調印するよう促進した。その目的は「中日両国間の貿易を展開し、中日両国民の友好を強める」ことであった。同時期に第２回民間貿易協定を締結した。ここから、中日間の貿易関係は「人民間貿易」の方針を以て回復していった。中日民間貿易のルートは円滑に向かい、日本の各界の名士が続々と中国にやってきた。同年、中国在留日本人帰国送還の計画が動き出した。

1954 年、日本の戦犯を特赦した。周総理は日本文化学術代表団と超党派議員団に接見した。中国赤十字会代表団が訪日し、これが戦後日本に踏み入れた第一陣の中国代表団であった。

1955 年、中国経済貿易代表団が訪日し、第三回民間貿易協定に調印した。1956 年、日本の旧軍人代表団が訪中した。

これより、周恩来の主導と推進の下、中日両国の民間団体は漁業、華僑、文化、科学、労働組合などと多数の協議を締結し、往来は日に日に増していった。

これに続いて民間外交を道筋とする両国が国交関係正常化への方向に推し進めた。だが、60 年代に「半官半民」の新しい段階に入った前夜、1958 年 5 月、岸信介内閣政権発足後に長崎国旗事件が発生した。民間交流は低迷状態に陥った。中国政府は 1958 年 5 月に両国間の経済文化交流を中断すると発表せざるを得なかった。この間、周恩来は完全に断ち切っていない人的往来を通じて、積極的に政治家、実業家を招き、関係修復の突破口を探していた。また、膠着状態を打開する「政治三原則」を提案して、日本側に求めた。周恩来は貿易界の名士である鈴木一雄ら日本の友人と会見した際に、「貿易三原則」(政府協定・民間合作・個別配慮) と政経を分けない主張を提案し、貿易三原則は必ず政治三原則と関連すると強調した。それから民間外交に頼り、最終的に両国の関係は中日関係が樹立に達成した。

建国初期の対日民間外交は実践から動き出し、最初に経済交流の水門を押し開けたのである。現実に役立つ成果先行とはいえ、いずれも対日民間外交の構想から湧き出るものであり、民間外交思想を構築していく基礎となった。特殊な時代背景に生まれた民間外交が独創的だけに、思想へと抽出整理するまでに時間がかかる。民間外交の要点を敢えていわせれば、周恩来の主導に制定された「民間先行　以民促官」並びに、その後に続く「半民半官」「官民並挙」方針をあげられよう。ともあれ、民間外交とは内外未曾有の創造であり、中国独自の対日外交思想の中核と思える。その価値と意義について、これまでに上げてきた建国以来の大事件への検証を通して考察され、印証される。

3. 民間外交の課題

周恩来の民間外交の要点を整理・研究するのに、課題が多く残されている。目下、おおよそ四つの実践から検討されることが考えられよう。

①原点が日本と欧州を留学した実践による

②内容が国造りの実践で昇華させる

③方法論が対日外交の実践から花開ける

④価値は後世の実践に検証されよう

もう一つ、周恩来が中国政府を代表して日本に戦争賠償を求めなかった背景も課題として取り上げられる。

1952 年のサンフランシスコ平和条約によれば、日本は中国に対して、戦争賠償すべきである。しかし、1972 年 9 月、「日中共同声明」の発表により、日本と中国との国交正常化する際、「日中共同声明」の中には、「中華人民共和国政府は、中日両国国民の友好のために、日本国に対する戦争賠償の請求を放棄することを宣言する」と明記していた。

1972 年の時点で日本に対して 1200 億ドルの戦争賠償を請求できるにもかかわらず、なぜ中国政府は

それを放棄したのか。戦時下の日本政府と一線を置く国民に負担をかけたくないとは最大な要因と考えられる以外に、当時の中国はソ連に脅威される中、アメリカや日本などの先進国と外交関係の構築の需要性に迫り、一つの中国の主権問題（台湾政府への否認）などが山積みであった。さらに日本の敗戦時に中華民国政府（蒋介石）が中国の窓口であり、戦争賠償の放棄を公言した事実があった。

よって、1972 年 9 月 29 日、田中角栄と周恩来との間で「日中共同声明」が交わされ、日中国交正常化を最優先処理の懸案として実現した。周恩来は中国国民の計り知れない犠牲やその心情があるにも関わらず、「復讐や制裁では憎しみの連鎖は断ち切れない」という考えがあったことが述べられており、「20 年 30 年経てばわかる」としてこの考えを曲げることはなかったという [4)]。また、「日本の人民もわが国の人民と同じく、日本の軍国主義者の犠牲者である」として、当時の政府と国民を分けて考えなければならないとし、中国国民に向けたメッセージも込められていたと考えられる。

こうなった背景には単一の要因の存在があり得ない。きっと複雑な要素が働いたに違いない。当然ながら、こうなった結果も一人二人の独善に寄らず、国家利益を基準に出された指導層の決断になる。想像するにはその瞬間、周恩来の目の前に往時の嵐山の佇まいがかすんでいたかもしれない。

国民の負担をも配慮する角度から、戦争賠償処理のありかたを決めた新中国の政府となるが、その発想の基本に同時期に確定した対日民間外交の思考とは無関係のはずがない。字数の関係により、これに関する論考を別の機会に譲らせていただきたい。戦争賠償に関する周恩来及び中国政府の意向を考察・確認できる資料の一部を参考にあげておく。

＜中国語の文献＞

○田桓編（1996）「周恩来总理和日本公明党竹入义胜委员长关于中日邦交正常会谈的要点 第一次会谈」、『战后中日关系文献集：1971-1995』、中国社会科学出版社

○田桓編（1996）「周恩来总理和日本公明党竹入义胜委员长关于中日邦交正常会谈的要点 第二次会谈」、『战后中日关系文献集：1971-1995』、中国社会科学出版社

○田桓編（1996）「周恩来总理和日本公明党竹入义胜委员长关于中日邦交正常会谈的要点 第三次会谈」、『战后中日关系文献集：1971-1995』、中国社会科学出版社

○田桓編（1996）「周恩来总理和日本公明党竹入义胜委员长关于中日邦交正常会谈的要点 第一次会谈」、『战后中日关系文献集：1971-1995』、中国社会科学出版社

○田健（2013）「日本戦争賠款問題」、『文史精華」

○王先勇「中国政府为什么放弃日本的战争赔偿？」、人民网
http://history.people.com.cn/GB/205396/17308593.html（2019 年 8 月 13 日確認）

○中共中央党史研究室（2018）「周恩来和平外交政策六条方针是什么」周恩来纪念网
http://zhouenlai.people.cn/n1/2018/0323/c409117-29885925.html（2019 年 8 月 13 日確認）

＜日本語の文献＞

○家近亮子・段瑞聡・松田康博（2012）『岐路に立つ日中関係―過去との対話・未来への模索』晃洋書房

○劉傑（2001）「日本と中国の和解をめざして」『いま、歴史問題にどう取り組むか』岩波書店

○矢本あや（2003）「日中歴史問題と内政」
http://www.j.u-tokyo.ac.jp/jjweb/research/MAR2004/26174.pdf（2019 年 8 月 13 日確認）

○川島透「日中間戦後補償問題について」
http://www.gakuji.keio.ac.jp/hiyoshi/hou/fukusenkou/3946mc00000274t2-att/lin_zemi.pdf
（2019 年 8 月 13 日確認）

○田中明彦　データベース「世界と日本」
http://worldjpn.grips.ac.jp/documents/indices/JPCH/（2019 年 8 月 13 日確認）
「周恩来の日中国交無条件回復提案に関する論評報告」、外交史料館外交記録文書 A-0133、0247-0251 頁。

6．なぜ、文化交流に期待するか

周恩来は念入りの対日民間外交が経済、貿易から始動したかたわら、文化交流には本格的に力を注いだ。1950 年代、中日貿易の往来は迅速に熱が高まってきたと同時に、周恩来は中日文化芸術の交流を推進する機会とし、文化の段階から両国民の互いの理解を進める施政をした。具体的に 1956 年、梅蘭芳が団長であった中国芸術団が訪日し、空前の好評を得た。1963 年に、日本各界が日中国交を回復する要求の署名運動が沸き上がった。1971 年、中国卓球代表団が名古屋で行われた第 31 回世界卓球選手権に参加し、国民同士の友好ムードを引き起こして「ピンポン外交」とまで呼ばれた。1972 年、上海バレエ団が訪日し「白毛女」を上映した。

では、文化交流の効果を期待する周恩来の理由を考えよう。

1. 中学時代の日本観

1913 年から 1917 年の間、南開中学で学んでいた周恩来は 52 篇の作文を仕上げた。ヨーロッパに行く前にこれらの原稿は周恩来の手により製本化し、友人たちに渡し保管された。戦乱の時期を乗り越えて、52 篇の作文は時間軸に沿って編集整理され、2013 年の刊行に至った。

周恩来が南開中学に入学して百年後の 2013 年、天津の南開中学と中央文献研究室第二研部の編著である『周恩来南開中学作文箋評』が人民出版社より世に送った。表題からわかるように、この文集は周恩来が在籍中に書いた作文と論考である。この文集から周恩来は中学時代からすでに日本の動向をかなり注目していたことがわかる。よって、南開中学を卒業した 1917 年に、日本留学を心決めたのが自然のように受けとる。作文の中で、何度か触れる日本とはどういうものか。それを抽出して表の形でした。

時間	題名	内容	注	ページ数
1915 年春	「与友人予約春假旅行啓」	旅行先を済南とした。この旅行は日本が挙兵し、我が国の官吏との措置を観察する。	手紙である。旅行の計画を済南にし、日本人の動向を観察している。	74
1915 年秋	「子与氏不言利、司密氏好言利、二説孰是、能折衷之欤」	1）今中国という危急存亡の危機一髪の時に、同族である東の隣国は突然野望を抱き始めた。 2）現実の相手は日本人であり、弾圧に耐えられず、やむを得ずこれを考えた。	「中国の根本を救う計画」	110
1915 年冬	「海軍説」	日本もまた島国でありながら、初戦で我が国を破り、次にロシアに勝ち、台湾と朝鮮を占領している。近世の新進国家であり、優れた黄色人種でもある。		117
1915 年冬	「或多難以固邦国論」	1）下関条約で日本人が侮辱する。 2）隣国の日本が第一次世界大戦の機会に乗じて、最終通告を突然出してきた。政府は後ろ盾がなく、時代の先駆者もおらず、屈辱に耐え条目を承認した。五項目は後ほど交渉する。	哀的美敦之書とはUltimatum、最終通告である。	125
1916 年 9 月 19 日	「致同学餞友啓」	よく知っている輪飛兄が日本留学官費を受け、まもなく日本に渡る。		246

1916年 11月	「今之憂国時者、佥謂国　匱民貧由于世風奢靡、然泰西学者研究奢靡問題界説不一、波利比阿謂奢靡由于習慣、紀夏井謂奢靡由于性盾、二説然否、試探本言之」	1）明治維新以来まだ半世紀ほどで新しい文明が芽生える時期にあるので、その国民生活はまだ西洋に及ばない。 2）紀夏井は日本の平安時代の人物であり、平安時代は純朴な気風があった上古の社会とははるかに本質が離れている。そのため彼は奢侈が本性だと述べる。習慣が長く続くと本性となり、奢侈はもともと習慣であったが、今となってはもはや習慣ではなく本性に変わっている。日本は国土が狭く、奢侈の気風が日本に広まると日本が強国となるは実現しがたく、さらに貧弱化していくであろう。故に紀氏は日本の国民が文明の発展を求めず、単に欧米と歩調を合わせ、生活の高い水準を追求することに警戒し、奢侈が本性という観点を掲げた。日本人はこの話を聞き、人間の本性は変えにくいことを知り、質素な生活を送るよう努力した。今日の日本が、その国民にある勤勉且つ純朴な気風は、紀氏の影響を受けたのであろう。		275

(出典は天津南開中学・中央文献研究室第二編研部編著(2013).『周恩来南開中学作文箋評』.人民出版社より)

南開中学に入学した時の周恩来の年齢は15歳。日本に対する関心点が作文に反映されている。例えば、表中に「紀夏井（きのなつい)」という人物が挙がっている。その方は廉直な官人であり、平安時代の貴族でもある。『土佐日記』の作者で知られる紀貫之より少し前の生没年（詳細不明）といわれる。858（天安２）年、讃岐守に任ぜられ、善政をしいたため人民の要望でさらに２年間留任となったという。

しかし、この人物について関連資料が殆どなく、調べられようもないぐらいである。恐らく周恩来の関心点が清廉な官僚に集中している。このような角度の観察眼の視野に身近な中国の官僚が居座っている。それに比較すると、紀夏井という望ましい為政者の存在を知り、中国官僚の参考対象にしたのであろう。自然な手法による比較作業ではあるが、周恩来少年に宿る国や民を憂う心情が見えてくる。国政の改善への希求に由来する正義が湧き出でる。

では、ほぼ取り上げられる機会もない紀夏井について、どうやって情報入手したのか。実は少年周恩来の日本観は、南開中学の下級生と関係があった。その下級生の名は陶尚釗(1903 － 1922)、祖籍は紹興市。1903年に奉天(現瀋陽)に生まれ、1917年に南開中学に入学し、周恩来とは密接な関係であった。二人は同郷であるだけではなく、祖母が従姉妹同士であった。

1919年9月16日、天津の学生が21人の会員を募り、周恩来をリーダーに核心的な「覚悟社」を成立した。陶尚釗は周恩来の影響を受け、覚悟社に入会した。1920年1月23日と29日、天津警察庁が周恩来を含む馬駿、郭隆真(女性)そして陶尚釗らの覚悟社の27人の愛国学生を逮捕した。先に出獄した陶尚釗は出獄後、周恩来の指示のもと、多方面で救済活動を展開した。1920年7月17日、周恩来とその他の学生は釈放を勝ちとった。

その後、兄である陶尚銘の援助の下、1920年11月7日に周恩来と陶尚釗は共に上海からフランスに留学した。1922年末、陶尚釗はフランスの下宿先で料理をしていたところ、不注意で火災が発生し亡くなった。19歳であった。周恩来が苦楽を共にした親友との別れを悲しんだことはいうまでもない。

弟ともみなした陶尚釗の父、陶大均 (1858 － 1910) は、清末における著名な「日本通」であった。1872 年に官費で日本に留学した。1879 年に横浜にある中国の駐日領事館に任ぜられた。当時の清政府が派遣した駐日大使は黎庶昌。1891 年に北京同文館が東方館を建築し、陶大均は国に戻り教官に任ぜられた。1895 年、李鴻章について「下関条約」を締結するために日本に赴いた。帰国後、李鴻章の提携下で外務部左丞などの要職に就任した。1910 年 7 月、陶大均はこの世を去った。彼の一生は日清戦争、戊戌の政変、義和団の乱、李鴻章の補佐のため、二度参事官となるといった経歴であった。終生、「教官」の気質を貫き、著書に励んだ。代表作に『中日戦記』2 巻、『戊戌政変紀要』1 巻、『庚子劫余録』3 巻、『平龕文存』4 巻、『劫余委遊草』1 巻、『平龕公牘』5 巻、『平龕日記』13 巻がある。

陶家の親族との交流を通して、周恩来の日本関心が刺激されたであろう。陶大均が、日清戦争の戦後処理のため、「下関条約」の交渉など重任を担い、李鴻章に同行した。貴重な体験談は無論、外交実践の「教義」として周恩来は薫陶を受けたと推察される。

2. 生活文化への注目と寛容性

日本留学中の四つの事例をあげてみたい。

その一、留学して間もなく友人へ。1917 年 12 月 22 日に、南開中学の同窓陳頌言に書いた手紙に，日本の魚料理を「僕は美味しく戴いて、まるで故里の魚料理の風味だ」。[13]

その二、1918 年 2 月 4 日の日記。「日本に来てから、すべての事について学ぶ目で見るべきだと思うようになった。日本人の一挙手一投足、すべての行事などを私たち留学の人はきちんと留意すべきだと思う。私は毎日一時間余りを使って新聞を読んでいる．時間は大切だというが、彼らの国情などをちゃんと知るべきだ」。[14]

その三、「私は日本で生活をし、日本についての印象がとても深い。日本は非常に美しい文化がある」。[15]

その四、「日本人民は勤勉で勇敢で叡智だと認識する」。[16]

上述のような感想は生活の実体感から自然に発せられるつづりである。総理になってからも目を背いたことがない。

1961 年 2 月 28 日、日本の客人と面会したとき

「中日両国は戦争から 15，6 年過ぎて、新たな要素が現れてきた。少なからずの日本人は中国から帰っていったが、中国に残っている日本人も少なくない。戦争は人々を対立させたものだったけれども、互いの接触と理解も増やしている。ご存知のように、５０００名余の日本女性は中国人と結婚している。これほどの数は歴史上稀なことだ。両国はすでに親戚関係となっている」。[17]

1954 年 10 月 11 日、日本の友人と三時間以上の会談の席にて

「1945 年 8 月 15 日をもって、日本軍は武器を捨てた。その前日まで 15 年間を戦っていたけれども、（中略）一旦、武器を捨てたら、日本人は中国人に友好的になった。中国人も日本人を友人として、憎しみを抱かない。最も大きく、最も感動的な出来事が東北で起きたのだ。当時、武器をおろした多くの日本軍は帰国せずに、一部の日本民間人と一緒に中国解放軍に参加した。病院で医者や看護婦をやる方もいれば、工場で技師や、学校で教師をやる方もいる。昨日は、まだ戦場で戦いあったが、今日は友人となった。中国人民は彼達を信頼し、憎しみを持たない。大多数の日本の友人が仕事をよくしていて、助けてくれている。我々は彼達にとても感謝している。彼達が皆自発的に集まってきたもので、我々は捕虜にして強制連行し

13 中共中央文献研究室・南開大学編 (1998).『周恩来早期文集（1912 年 10 月 -1924 年 6 月）』上巻 . 中央文献出版社・南開大学出版社 ,304.p

14 前掲書 ,327p.

15 中華人民共和国外交部・中共中央文献研究室 (1990).『周恩来外交文選』. 中央文献出版社 ,90p.

16 中華人民共和国外交部外交史研究室 (1993).『周恩来外交活動大事記（1949-1975）』. 世界知識出版社 ,88p.

17 中華人民共和国外交部・中共中央文献研究室 (1990).『周恩来外交文選』. 中央文献出版社 ,305p.

たものではない。昨年、大多数の方が帰国された。2万6千人余りもいた。信じられなければ、日本に帰ったら、彼達に聞いてみていい。戦いあっていた人々は武器を投げ捨てたら、一緒に仕事をして、しかも互いに信頼している。多くの中国人は負傷して、日本人医者に手術をしてもらう。病気の時、日本人看護婦に看病してもらう。とても信頼している。工場で、中国人は日本人技師を信頼して、一緒に機械を動かしている。科学院で、中国の科学技術者は日本人科学技者の研究成果を信頼している。これは友情だ、真の友情だといえる。信頼できる友情だ」。[18]

1954年10月11日、日本の客人と面会して、

「ここ百年来、日本は経済と文化では中国の先を進んでいる。明治維新を通じて、日本は工業化した。中国は過去の長い間に、各面において立ち遅れてきた。中国の文化が古いとよくいわれるが、あれは昔だった。歴史ではその地位があるけれども、ここ百年の中国は発展が遅れを取っている」。

「ここ80年来、中国は西洋文化を学んでいるが、多くはあなた達のところを通して学び取ったものだった。健在の中国の古い世代で、今、政治活動に従事している方々の多くは日本に留学したことがある。在席の郭沫若先生が留日生の重要な代表的人物だ。彼はあなた方達の帝国大学で医学を勉強したことがある。日本文化は私達にこのようなよいことを与えてくれたので、私たちは感謝すべきだ」。[19]

1972年4月21日、三木武夫氏一行と会見したとき、

「（中国と日本は）歴史上、いわれた通り、一衣帯水の関係を長く続けてきた。その中で、ただの半世紀、50年だったが、中国人民だけではなく、日本人民も軍国主義の災難を蒙った。軍国主義の被害を蒙ったから、中国人民が自覚できた。団結ができた。だから解放された。軍国主義はあなた達の広範な人民にも直接被害を蒙らせたので、戦後、軍国主義の復活に反対する人民が益々多くなっているのだ。従って、我々両国人民とも、軍国主義という反面教師で目覚まされたのだ。[20]

1954年10月11日、日本の客人に語った。

「昔、日本は中国を侵略したので、今日、中国は強くなったら、日本を脅かさないかと皆さんは聞くかもしれないが、私達は誠心誠意で世界平和のために奮闘していると皆さんに保証する」「いわゆる『同文同種』も『共存共栄』も他国を侵略するためではなく、排斥するためでもない。平和共存のためだ」「正常な往来に従ってやれば中日の文化交流の発展力はとても大きなもので、鍵が平和共存だ。どっちも別の思惑を持つべきではない」。[21]

上述した引用は一部に過ぎない。そう語られた背景と環境と対象によって内容も異なる場合があるものの、周恩来が常日ごろ、人間同士としての日本人像を抱き、生活面における日本への理解をしている実態が、上述の引用を介して考察できると考えられる。日本人なら普通に持っている思いやりを深く理解していたからであろう。

周恩来の姪である周秉徳さんが筆者に感動した往時の逸話を教えた。

1972年9月25日のこと

日中平和条約締結で日本の田中角栄総理大臣と大平正芳外相の訪中を迎える段取りを確認する夜、周恩来が徹夜で仕事する習慣化にかかわらず自分の秘書ら担当者に伝えた。「私は生活習慣を田中総理と近づくよう調整するつもりなので、私へは夜10時以降に書類を持ってこないこと」と釘を刺した。その理由は、毎日、田中角栄は早朝5時に起床する習慣があったから、数日は中国滞在中の田中総理に合わせて自分も5時起きを心掛けるからである。田中総理の細部の習慣まで、事前にきっちり情報収集していたとい

18 前掲書 ,88 ｐ .

19 前掲書 ,90 ｐ .

20 中華人民共和国外交部外交史研究室 (1993).『周恩来外交活動大事記（1949-1975）』. 世界知識出版社 ,583p,629 ｐ .

21《周恩来外交文选》，中央文献出版社 1990 年版，第 87-90、495 页。

う。例えば、中国政府主催の歓迎の宴で演奏されたのは、新潟県の民謡「佐渡おけさ」であり、郷里の歌を聴いた田中総理はこの想定外のもてなしを大変喜んだ。

相手をつねに気遣う周恩来の性格があらわれたものと考えていい。寛容の精神を習性にしているから。日本軍と１５年戦争を戦い抜き、国共内戦も勝ち抜き、新中国建国後も混乱の政局を治め、世界外交の幾多の難局を乗り切った政治家・革命家にとって「気遣い」と寛容性を終生忘れていなかった。それは本能的に備わっていたものとは別に、日々の涵養が必須ではないか。ここのところも日本と関わりが考えられる。日本留学によって異国の日本を冷静に客観的に接する機会を得た。さらに一カ月の京都逗留、あえて極言すれば嵐山の逍遥によって、持ち前の気遣う感性を鍛えられ、柔軟性のある多元な観察眼に磨きに掛けたのだろう。寛容性は対外交渉の潜在効果を滑らかに高められ、国際関係における難題の解決現場を潤わせるのであろう。

3. 両国共有の歴史文化を思考の素地に

両国の歴史文化の源流を重んじると、両国の風土の深層に潜在してある共有に感銘せずにいられない。このような見地に立つと、日中間の問題点を図るスパンが長くなる。周恩来の対日認識の特徴がここにあり、涵養性と寛容性の持続可能の源泉でもあろう。

世界知識出版社発行の『研究周恩来――外交思想与実践』（中国人民共和国外交部外交史編纂 1989 年）の中に文化人夏衍の論著「永遠に忘れられない教示」が収録されている。その中に周恩来が 1955 年 7 月に重要な指示をした記述がされてある。それを整理すると、

①すでに国交を結んだ国家に対しては政府を外交の主体とし、民間外交は補足とする。
未だ国交を結んでいない国家に対しては、民間を先行し、「以民促官」とする。

②日本に対してここ 60 年だけではなく、中国との関係が 2 千年の歴史ある角度についても要考慮する。日本が我々を侵略した。だが、日本と我が国は一衣帯水の近隣でもあり、漢や唐代から悠久の友好付き合いをした。日本人は人生哲学、経済文化、生活習慣にいたるまで、中国とは切っても切り離せない関係がある。そのため現在の状況下で、日本との付き合いは、自然に進めていき、無理をしないことである。自然にでなければ、中国の民衆は対応せず、無理を大きくさせ、日本政府はなにも行えなくなる。そのため「瞻前顧后、日積月累、水到渠成（なるようになる）」が必要であり、まずは文化、体育、貿易からことを起こし、各種民間ルートを開拓し拡大する。友と広く交わり、民を以て官を促す、細流を河川と成し、熟して成るのを待つ。平和五原則を基本にし、国交成立の目的を達成する。

③対話の外交効果を唱える。双方の掛け合いに心かけるよう、「兵対兵、将対将（対象にみあう対応）」のことわざを覚えておく。また、異なる意見を交換することは大変有益であるとしている。

④相手国の長所に気づき、学ぶべきことを強調し、排外主義であるといういかなる言行を決してしないとした。

では、建国初期の「民間先行　以民促官」の段階に対し、周恩来は経済、貿易交流からという採択を決める際、本質の何かを冷静に透析して直視にしたのか。江培柱・邱国洪の『中日関係舞台上的輝煌楽章』によれば、民間が互いの往来通商を行えば、日本国民が中日の間の国交回復が真っ先に日本人に有益であるとわかる。他方中国人民にも有益であることから、日本政府が対中政策を変えることになるだろうという。そして、周恩来は胸が自信に満ちた預言をした。「中日両国が未だ正常な関係を回復していないから、国際法に則り、未だ戦争状態が存在している。しかしこれは両国民の友好活動と民間協議を調印した妨げにはなっていない。このようにまずは民間よりの頻繁往来かつ協議達成から始め、両国関係を大々的に発展させていく。最後に残った外交上にて戦争状態の終結を宣言してから正常関係を回復するのである」「国

民外交方式でしていくと、日本の団体の訪中が多くなり、我々の団体も多く訪日している。両国がやろうとする事を行えている。最後は両国の総理と外相の調印とシャンパンの乾杯が残っているだけだ」。

繰り返して強調させたい。周恩来が留日体験を通して、歴史的に日本を観察する知恵を身につけたと伺える。これも周恩来自身の話を通してのぞかれる。

1954 年 10 月、周恩来総理は日本学術文化訪中団に会見した時に、「歴史上、私たちの文化は互いに交流し、影響を与えていた。正常な往来に照らし、中日の文化交流は大きな発展前途があり、そのカギは和平共存です」と話した。たった四十七文字の話であったが、その中で中日和平発展を促進する目的、方向と方策を指し示している。こうなったのも目の前の中日関係のみの考察ではなく、2 千年来の両国交流史に対比しながら時事問題への対応を思案した。そこから、両国間の正常往来の目標が和平のほかにない選択になる。平和を実現する有効なルートは両国民共有のものとなると、一押しの文化交流が上がってくるのである。他方文化交流には経済と貿易の交流を必要とし、民間から推進しなければならない。つまり、中日関係の推進には、経済と文化の両輪を共に駆使し、民間の軌道から走り出させる段取りがいる。これを以て特色のある民間外交を体現したい次第であろう。

対日本外交に周恩来が史学的視野を持たれていることを周秉徳女士からも伺った。女史によれば、平和条約を締結した 1972 年、田中角栄首相を北京から見送るときに、周恩来はこういった。

「私たちと日本の付き合いは 2 千年もの歴史と半世紀の対立があります。今日、私たちは時代が螺旋式に前進することを見ました」。

想像に難くないが、建国初期の周恩来は政務が多忙を極め、外交の概念と定義を整理する余裕がなかった。比較的にいえることは、彼は多くの実践に心血を傾けた。不完全な統計ではあるが、1953 年 7 月 1 日から 1972 年 9 月 23 日の中日国交正常化前夜まで、この 19 年間もの間周恩来が面会した日本人は 287 回、323 の代表団 (或いは多くの客人) に上る。日本の政治、経済、文化の各領域、工業、農業、商業、学術社会などあらゆる階層に幅広く接触し、余力を残さずに中日関係の深い発展を推進した。これは周恩来流の民間外交の実践であり、行動で示す民間外交とは何かでもある。このような対日姿勢は、結果的に対象国の国民の心をも打ち、日本側の共鳴を引き寄せられることに至った。ここで再度周秉徳女士に述べられた話を引用しよう。

「国交正常化への歩みを止めずに、世代友好を追求しようとした。そのため中日国交正常化以降、周恩来は依然両国民の民間往来を特別に重視していた。重い病身であった時でさえ病院にて池田大作と会見に臨むよう持ちこたえていた。池田大作は「中日友好関係に関して、総理はもともと民のためを思っていた。一枚の紙の条約が簡単に変化を生んだ。総理の考えは＜民衆が互いの真摯な理解や信頼関係を樹立するだけで、真の中日友好である＞と述べた」。

「日本人は周恩来総理を崇敬し敬愛していた。2011 年 8 月、NHK がゴールデンタイムに 4 日連続して特集映像・家族と側近が語る「周恩来」を放映した。このテーマは日本でも大変人気を受け、皇后陛下もご覧になったという」。

周秉徳女史に言及された「皇后陛下」がご覧になった『家族と側近が語る「周恩来」』の背景について、少し付け加えさせていただく。2012 年 4 月 20 日､訪日中の周恩来ご親族一行が王敏研究室を訪ねてきた。その夜 9 時ごろ、皇后様が研究室にお電話をしていただいた。周恩来氏が日中の平和関係へのご尽力に感謝する温かいお心遣いであった。無論、直ちに皇后様の御旨を周秉徳女史にお伝えした。

このような経緯があって、2017 年 8 月 29 日筆者が周秉徳女史の自宅を訪ね、来る 9 月 8 日，周女史が人民大会堂で開催する予定になっている中日国交正常化 45 周年記念式典のスピーチの原稿内容について語り合ったのである。

2017 年 8 月 29 日　周秉德女史宅にて

7．桜に思いを

1979 年 4 月、周恩来夫人の鄧頴超女史を代表とする一行が日本に招待された。周恩来の「雨中嵐山」の詩碑の除幕式は創詩の 4 月 5 日に選ばれた。周恩来の護衛であった高振普将軍はこう追憶している。

1979 年 4 月 5 日も小雨がかすんでいた。鄧頴超一行が詩碑の前に着いた瞬間、雨が突然止んでしまった。除幕式が始まるころに、空から一筋の光が挿し出されて、詩碑をてらしだした。この風景は「雨中嵐山」に描写されたイメージと重なった。

潇潇雨、雾蒙濃、
一線陽光穿雲出、愈見姣妍。
人間的万象真理、愈求愈模糊、
一模糊中偶然見着一点光明、真愈覚姣妍。

（訳）雨濛々として霧深く
陽の光雲間より射して　いよいよなまめかし
世のもろもろの真理は　求めるほどに模糊とするも
一模糊の中にたまさかに一点の光明を見出せば
真にいよいよなまめかし

この神秘的な情景は、一心同体の夫妻ならとしか思えない。挨拶中の鄧頴超がこの瞬間、原稿から離れて生身の感受を語りだした。

「太陽が出て来て、私たちを照らしました。これは中日両国、そして両国民の友好を象徴している無限の光です」「絢爛なる桜が自然の法則にて花開き、無数の木々にて一斉に咲き開き、またその内に何処にも留まらず、勇ましく去っていきます。桜が青年だった周恩来に人生の真理を追い求めることに対して、多大なる啓示を与えたと思います」。

(https://mp.weixin.qq.com/s/H7UpIM-cL7ulAdY6F3paYw より)

鄧頴超の内心から発したこの言葉から、明確な意味をとらえることができる。「千樹万樹同時開放」の桜が人々の夢を表すものとすれば、「自然法則」が平和と繁栄を凝縮する万人の願望と解されよう。これは「青年だった周恩来に人生の真理を追い求めることに対して、多大なる啓示を与えた」ものを示唆する。日本人も中国人も同じ夢を目指すなら、人が主体である民間に信頼をかけてもよい、対日民間外交の展開が期待できると考えられよう。このような思考の行き先に、対日民間外交が形成されつつあったかと思えば、周恩来の姪・周秉徳女史の話に耳を傾けることにしよう。2017 年 9 月 8 日、人民大会堂で開かれた中日国交正常化 45 周年記念パーティーにおけるスピーチ原稿によるものである。

《伯父の周恩来はかつて若い時に日本留学に行き、日本国民の善良さと友好が彼の深い記憶に残り、一生忘れがたいことでした。新中国成立してまもなく、伯父は日本の友人に対してこう述べました。「私は日本で生活したことがあり、日本に対する印象はとても深いものである」。1974 年 12 月 5 日、病身であった伯父は日本の創価学会会長の池田大作と会見した際に、再度青年時代に日本で生活していたことを思い出し、懐かしくいった。「私は日本から帰国してすでに 55 年です。1919 年の桜が満開の時期に戻って来ました」日本留学は伯父に日本そして、日本国民を深く理解させ、日本国民に対して深く厚い感情を抱いています》

周秉徳女史は中国政治協商委員会を務め、中国新聞社の副社長でもあった。2012 年 4 月 20 日、周女士とその兄弟姉妹の周秉宜女士、周秉華さん及び周秉和さん一行が小雨の中、東京千代田区にある法政大学を訪れた。当日の昼過ぎ、一行は外堀沿いの桜道で王敏研究室の留学生たちと共に「雨中嵐山」を朗読した。

（左から周恩来の姪周秉華、周秉和、周秉宜女史、周秉徳女史。右から周秉宜女史のご主人・任長安、右三番目は王敏。ほか三人は留学生）

周恩来は 1919 年に帰国してから 55 年の年月が過ぎ去った。国のため人民のため、心血を注いで政治に邁進していた日々、桜を見る暇がなかった。しかし日本に滞在した 1918 年と日本を去る 1919 年の 2 回見た桜の美しさを忘れたことはないという。平和条約を結んで 2 年後の 1974 年 12 月 5 日、病状が回復傾向をみせたとき、周恩来は創価学会会長である池田大作に対して懐かしそうにいった。「私が日本から帰国してもう 55 年です。1919 年の桜の満開の季節に戻って来ました」。桜が周恩来の記憶から一時も消えていなかった。生涯にわたって日本の桜の満開の風情が脳裏に焼き付いていたからである。

桜への思いが連綿と連なっている。後世にとって周恩来の日本観及び対日思考の形成過程を考察するのに重厚な材料となる。

おわりに

本論は嵐山に対する二度のフィールドワーク及び周恩来が両国の特殊な歴史文化関係に対する洞察の深層を考察した。これにより、周恩来は対日外交の中で、始終中日両国民に期待をかけていた理由が見えてきた。対日民間外交の提唱は 1919 年の嵐山考察とは無関係ではない。あの時に出会った人物群像と嵐山の歴史人文環境がいずれも対日調査の第一次資料とも見立てられる。周恩来の対日認識の全過程において、日本の風土文化への体験と洞察が体現されている。

中国建国の功労者・蕭向前が「周恩来の対日関係に於ける卓越なる貢献」(『周恩来研究――外交思想と実践』世界知識出版社　人民共和国外交部外交史編纂室 1989 年) でこう分析している。周恩来の日本留学が「救国救民の真理を探すため、国難に赴く同志を見つけるためであった。1949 年に中華人民共和国が成立し、周恩来は皆が期待していた総理に任ぜられ、その生命の最後の一息まで、彼はひたすらに手ず

から対日業務を握っていた。当時、中日が双方とも少しも接触がない民間と半官の外交を経て、正式国交を樹立した。実に足かけ 23 年の時間がかかった。樹立以降、周恩来は平和友好条約締結のため、三年を苦労に費やした。十分な理由を以ていえることには、周恩来が中日関係正常化の全工程を率いていたからである」。

「留日」の過程はよい国際関係の経験と知識構築の蓄積を与えてくれ、留学現場は周恩来に人民主体の外交を構築する信念を固めた。彼は日本体験から、中日両国を結びつけた共通の歴史文化の脈を把握し、両国の結び目が外された危機から新たに結びつけ直した。

2019 年 4 月 5 日、青年周恩来の詠んだ「雨中嵐山」創詩 100 年、嵐山公園に「雨中嵐山」の詩碑建立 40 年を迎えた。それを記念して、筆者が『嵐山の周恩来』を三和書籍から上梓した。一カ月後の 5 月 20 日、京都市長の門川大作氏をはじめ 150 人の有志が、日中国際文化交流協会の主催のもと、嵐山の詩碑で厳かな献花式を行われ、市内のホテルで盛大な記念式を催した。この記念日も雨が時々降った。周恩来が百年前に探訪した嵐山と同じく、「雨濛々として霧深く　陽の光雲間より射して　いよいよなまめかし」であった。

すべては嵐山の桜の雨情によって清められた。日中両国の有志が周恩来の偉大な足跡を追想してつきるときがなかった。

（完）

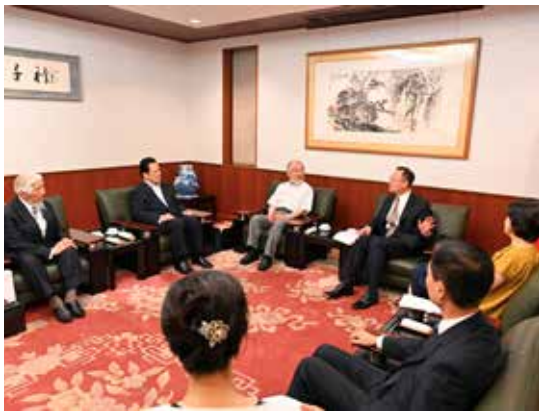
【文末脚注】

i 新中学会は 1917 年 7 月東京水産学校の楊扶清と張国経、留学生で元南開中学の馬洗凡、童冠賢、高仁山、劉東美、陳鉄卿、楊伯安、そして法政大学の李峰、黄開山などが東京にて共同で留学生団体を立ち上げた。新中学会は「赤心」をエンブレムとし、感情を伝え、品行を研ぎ、学術を解き明かし、科学的方法を運用して中国を発展させることを宗旨とする。

ii 馬洗凡 (1892 － 1946) 河北省昌黎県人。新中学会創設メンバーの一人。1946 年病没す。

2．書の寄贈

2019 年 7 月 24 日、中国駐大阪総領事館（大阪府大阪市西区靱本町３丁目９- ２）を訪問し、京都在住の書家・杭迫柏樹氏揮毫の書『雨中嵐山』を寄贈致しました。



3．新聞記事

（京都新聞 2019・5･21 より）

周恩来元首相詠んだ「雨中嵐山」詩碑
建立 40 周年　日中友好願う　関係者が献花

中国の周恩来元首相が詠んだ詩句「雨中嵐山」を刻んだ詩碑の建立 40 周年を祝う献花式が 5 月 20 日、京都市右京区の嵐山公園であった。詩句が詠まれてちょうど 100 周年にもあたり、日中の関係者約 150 人が、元首相の功績をたたえ、日中友好が続くことを願って花を手向けた。

周元首相は、1917 年 9 月から約 1 年 7 カ月、日本に留学。「雨中二次遊嵐山」（雨の中を再び嵐山で遊ぶ）で始まる詩句は、帰国直前に詠んだ。詩碑は、日中国交正常化締結の翌年 79 年に建立された。

献花式は日中国際文化交流協会が主催し、華僑や留学生らが参列。献花式などの記念事業に関わったワタキューセイモアの安道光二会長が「中国発展の礎と日中友好の懸け橋を作られた。今も多くの恩恵を受けており、感謝する」とあいさつ。同協会の松田和典会長は「詩碑の存在は、中国では有名だが、日本では知られていない。多くの人に訪れてほしい」と話していた。

（読売新聞 2019・5･21 より）

周恩来氏創作詩 100 周年祝う
「雨中嵐山」献花式に日中関係者

中国の周恩来元首相（1898 ～ 1976）が嵐山で詠んだ詩「雨中嵐山」の創作 100 周年などを祝う献花式が 5 月 20 日、右京区の嵐山公園内にある詩碑前で行われた。

日本に留学していた周氏は 1919 年、帰国前に訪れた嵐山で詩を創作した。周氏は 72 年には田中角栄元首相と日中共同声明に署名し、国交を正常化した。79 年に建立された詩碑は、日中友好の象徴として中国人観光客らが訪れている。

式典は日中国際文化交流協会が主催。両国の行政や経済関係者ら約 150 人が参加し、花を供えた。

（毎日新聞 2019・5･21 より）

周恩来記念碑前で式典
「雨中嵐山」詩作 100 年、建立 40 年

日中平和友好条約の調印（1978 年）を記念し、中国の周恩来元首相（1898 ～ 1976）の功績をたたえる「雨中嵐山」詩碑（周恩来総理記念詩碑）が京都市右京区嵐山の亀山公園に建立されて今年で 40 年、詩が作られ 100 年となった。

5 月 20 日、碑前に日中の関係者約 160 人が参列して献花式があり、中国の李春・駐大阪総領事館領事と門川大作市長らが花をささげた。

周は 19 歳から留学で日本に約 2 年間滞在し、離日直前の 1918 年から翌年春まで半年は京都の友人宅に寄宿。京都帝国大教授だった河上肇のマルクス経済学の本を読み、その後の革命につながる思想的刺激を受けたといわれる。

「雨中嵐山」は 1919 年 4 月に嵐山を訪れて詠んだ詩で、「雨中二次遊嵐山」（雨の中二度、嵐山で遊ぶ）で始まる。新しい思想に触れて暗闇の中で一筋の光を見たような感動を表現。当時としては斬新な口語の新体詩となっている。碑は友好条約調印を記念して京都の日中友好団体が 79 年 4 月に建立。鄧小平、温家宝ら、来日した中国の要人が多く訪れ、今も中国人旅行客の人気スポットとなっている。

この日の献花式は京都市が呼びかけ、経済関係者や研究者らでつくる実行委員会が主催。李領事は「周総理の魂は地球中に今も残り、嵐山ではこの碑として残っている。碑は中日友好の印で、未来に向け文化交流を発展させたい」と述べた。

実行委の中心となった一般社団法人日中国際文化交流協会会長の松田和典さん（74）は「碑は日本ではあまり知られていない。若い経営者らに碑の意味を知ってもらい、中国との友好と文化交流を広げたい」と語った。

（朝日新聞 2019・5･24 より）

周恩来詩碑　日中の 150 人献花
嵐山公園、建立 40 周年

中国の周恩来元首相が詠んだ詩「雨中嵐山」を刻んだ詩碑が、右京区嵯峨亀ノ尾町の嵐山公園に建立されて 40 周年となるのを記念し、20 日に詩碑前で献花式があった。今年は詩が作られてから 100 年にもあたる。日中両国の大学、経済関係者ら約 150 人が参加して花を捧げた。

日本に留学していた周恩来は 1919 年に嵐山を訪れ、「雨中嵐山」を詠んだといわれる。京都と中国にゆかりの深い関係者によって、79 年に詩碑が建てられた。

式に出た門川大作・京都市長は「国と国の関係は都市、市民交流が大切。今後も努力してまいりたい」とあいさつ。主催した日中国際文化交流協会の松田和典会長は「碑ができたのは国交回復からわずか 7 年後。多くの人に詩碑の存在を知ってもらい、日中友好の未来を考えてほしい」と話した。

4．協賛広告

ご協賛各社

※順不同（敬称略）

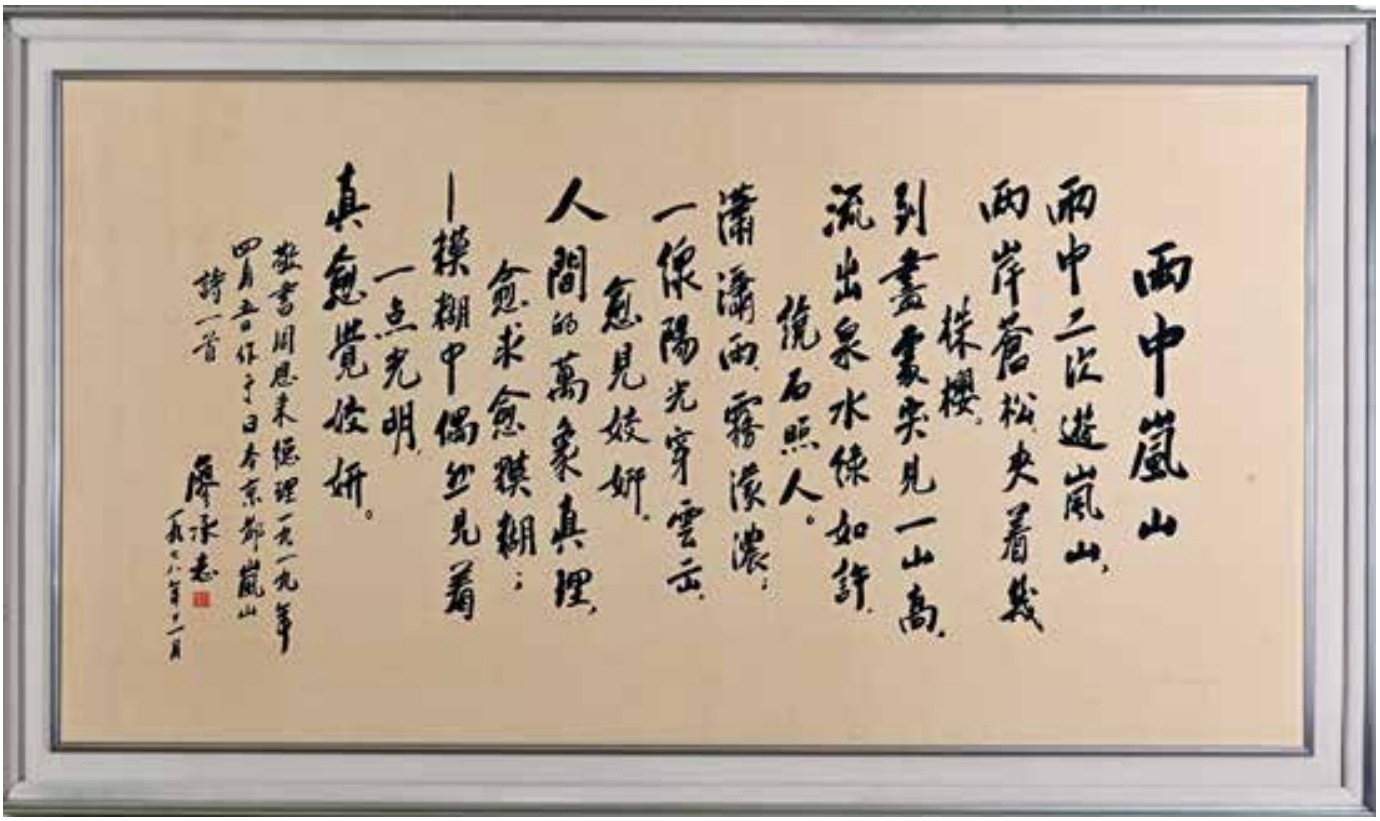
内田昌一（京都青果合同株式会社取締役名誉会長）

日中国際フェリー株式会社

京つけもの もり

ワタキューセイモア株式会社

ご協力ありがとうございました。



（碑文　医療法人社団 松仁会 内田病院 所蔵）

祝

周恩来元首相記念事業
創詩 100 周年
記念詩碑建立 40 周年

内田昌一

（京都青果合同株式会社取締役名誉会長）

しんがんじん

新鑒真

XIN JIAN ZHEN

日中友好の架け橋となるべく日中間に戦後初めての海の定期便として

大阪・神戸から上海間をウイークリーで定時運航

ゆったりとした快適な船旅と安全でスピーディーな貨物輸送を提供しています。

日中国際フェリー株式会社

Tel: 06-6536-6541　Fax: 06-6536-6542

大阪市西区新町 1-8-6 三愛ビル２F

jifco@shinganjin.com　URL: www.shinganjin.com

京つけもの
もり

本社・三条店／太秦本店

もり　検索

※写真はイメージです。

必要なものすべてを。必要なものだけを。
心をこめてサポートします。

ワタキューセイモア（株）

●リネンサプライをはじめ設備備品サプライ、
各種請負･売店運営など、施設内の業務を
トータルにサポート

日清医療食品（株）

●医療･福祉施設向け給食の受託業務
●医療･福祉施設向け食材等販売業務
●在宅配食サービス事業

古久根建設（株）

●総合建設業（建築･土木）
●医療･福祉施設のコンサルティング

綿久リネン（株）

●ホテル･レストラン向けリネンサプライ
●ダストコントロール用品のリース･販売

（株）メディカル･プラネット

●医療業界への人材紹介･派遣業務
●教育･研修事業、コンサルティング事業
●医事関連業務及び病院一般事務の受託

（株）フロンティア

●院外調剤薬局の経営
●介護保険における福祉用具のレンタル
●福祉用具･介護用品の販売
●在宅介護における住宅改修

健康と快適の明日を考える
ワタキューセイモア株式会社

www.watakyu.co.jp

本　社／〒610-0396 京都府綴喜郡井手町多賀茶臼塚12-2
本　部／〒600-8416 京都市下京区烏丸通高辻下る薬師前町707 烏丸シティ･コアビル　TEL.075-361-4130
支社･支店／北海道支店、東北支店、関東支店、東京支店、名古屋支店、近畿支店、中国支店、四国支店、九州支社、沖縄綿久寝具（株）

周恩来元首相記念事業 報告書

2020 年（令和２年）５月 30 日
編集・発行　一般社団法人 日中国際文化交流協会
周恩来元首相記念事業委員会
〒 530-0041 大阪市北区天神橋 2 丁目北 1-10-202
事務局：〒 604-8383 京都市中京区西ノ京小堀町 2

※文中の肩書や名称等は当時のものを使っています。